

名城大学通信

Summer
2011

42

MEIJO UNIVERSITY Report

[巻頭]

新学長就任メッセージ

[緊急特集]

名城大学の 東日本大震災に対する取り組み

卒業生がアジア大会で銀メダル

科学技術創生館が誕生

「SUBWAY」オープン



名城大学第17代学長

中根敏晴

新学長 就任メッセージ

**大学を取り巻く厳しい
社会情勢を打開するために**

名城大学の第17代学長に就任した中根です。
リーマンショック以後の経済停滞により、大学を取り巻く社会情勢は厳しさを増し、全国的にも学費負担者の経済力悪化による進学断念や、学業継続が困難な学生を生み出しています。

こうした入り口での状況は、出口、つまり就職状況においても厳しさをもたらしています。リーマンショック以前には、99・98%という高率な就職決定率を享受していた本学においても、内定確保に苦戦する学生が数多く見られます。採用枠を絞った企業は質をますます重視する傾向にあり、内定をいくつも取れる学生と1つも取れない学生の2極化も進んでいます。

さらに中東の石油に依存しているわが国の経済が、産油国の政情不

安に翻弄されており、加えて、東日本大震災の甚大な被害、今も続く原子力発電所の危険な状況、さらに日本の政治的不安定さ、脆弱さが負の相乗効果を生み、日本の国力回復に重くのしかかっています。
本学がこうした厳しい社会・経済状況を乗り切っていくためには、入学センター、キャリアセンターを中心とした受験生確保、就職支援活動に一層の努力を続ける必要があります。しかし、何よりも、学生の質の向上と研究や社会貢献によって高い社会的評価を得ることで、総体として社会から評価され、信頼され、支持される大学になる以外、こうした苦境を打開する真の道はなからうと思います。

大学は社会に出るための 助走期間

学生にとって、大学4年間は社会に出るための助走期間であり、スピードをつける、基礎体力をつける時期だと思っています。本学には学びたいことが学べる環境が用意されています。

2006年から経済産業省が「社会人基礎力」を提唱しています。これは、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力です。社会人として通用するよう、主体性を持ち、論理的に考え、人とコミュニケーションのできる能力を在学中につけて

つけた大学運営を目指します。
「人材づくり」に対しては、①常識力②専門知識力③社会人基礎力の3つの力をつけることに注力しています。「研究の推進」については、研究条件の改善と研究者としての自覚をもち、地道な研究活動を継続することが不可欠だと考えます。

「社会の要請に直接応える社会貢献」との関連でいえば、特に、今回の東日本大震災は、大学の社会的使命と役割を改めて問うものといえます。本学においても、4月8日に全学集会を行い、生活支援・教育支援・研究支援の3つの本部を立ち上げ、提案された種々のアイデアを基に、いくつかの取り組みを実践し、制度化してきています。生活支援について、ボランティア協議会が行っている「3万枚の奇跡」には学内外から多数のご協力を頂戴しました。ここに感謝申し上げます。

さらに言えば、8つの学部をもつ名城大学の、専門家集団としての英知を結果することが、戦後最大の困難に立ち向かう一助になると確信します。

こうした視点を堅持した大学運営が、「社会から評価され、信頼され、支持される大学」という目標の達成に近づくものと信じます。

危機管理、 特に災害対応について

これまでの大学運営において想

定される領域の危機管理については、それなりに対応策が練られています。もちろん、社会状況の変化により、新たに加える事項や見直しが必要になるのは当然です。自然災害以外の危機管理は、起こってしまった後のことよりも、当然起こらないような管理を重視すべきと考えます。

今一番気になっているのは、東海大地震（東南海・南海地震）が起こった場合の危機管理です。30年以内にかかる確率が87%といえますから、これは確実に起きると考えざるべきであり、明日起こるかもしれないということが杞憂とはいえない状況にあります。

東日本大震災を教訓にして、考えられることを列挙して対応を急ぐ必要があります。すでに危機管理検討チームをつくり、大地震発生前と発生後の危機管理についてのあり方を検討し始めています。

本学は「穏健中正で実行力に富み、国家、社会の信頼に値する人材を育成する」という立学の精神のもと、その歴史を刻んでまいりました。これからもその実現に向けて、総合化、高度化、国際化の推進に邁進してまいりたいと思います。皆様のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

原点に立ち返り 社会から支持される大学に

ほしいと思います。

大学生ならば、自ら課題を見たり、与えられた課題を調べたりしなければなりません。文献や実験を通して、自分なりの回答を見つける必要があります。そして、まとめたことはプレゼンテーションして自分の考えが相手に伝わらなければなりません。社会人基礎力において、論理的に考え、人とコミュニケーションができる能力を磨くには、マナーとともに言葉（ポキヤブラー）の豊かさが必要になります。月並みですが、言葉の豊かさを得るために読書の習慣を身につけてもらいたいと思います。

引き続き、学生の主体性を 伸ばすためのサポートを

私は4年間、キャリアセンター長として学生たちを見てきました。就職状況はご存じのとおり、以前とは比べようのないほど厳しい状態となりました。本学の使命として、1人でも多くの学生が職業選びや就職で失敗しないよう、引き続き、学生の就業力向上を支援していききたいと思います。

学生の皆さんが主体性を持って学び、行動すれば、自分がやりたいことができ、なりたい自分になるための舞台が本学には整っています。例えば、高い就職率を支えるきめ細かい指導体制があり、1、2年次

の進路指導担当制やキャリアアデザインに向けた講演会、3年次からの就職指導担当制などで、就職サポートを行っています。

さらに教育においては、例えば机の上の勉強だけでなく、実際に現地現場に向かう教育も必要だと考えています。文系においてはフィールドワークを重視し、例えば、経営学部では「現場触発型教育・学習による就業力の育成」が文部科学省の2011年度「大学生の就業力育成支援事業」に採択され、現場触発型教育が始まっています。理系においては、例えば農学部なら農場実習、薬学部なら病院および薬局における実務実習など、頭で考え、体で覚える教育に力を入れています。

描く名城大学のビジョン

「社会から評価され、信頼され、支持される大学づくり」が、名城大学の不断に追求すべき目標と考えます。その目標の達成には、「社会に有用な人材づくり」「社会発展に貢献する研究の推進」「社会の要請に直接応える社会貢献」の3つに集約されるミッションの遂行が必要です。これらのミッションを遂行するために、「教職員の行動と意思決定の判断基準を、教育と研究に資するものかどうかに置き、常に考える」という、ごく当たり前のことを訴えています。今一度原点に帰り、地に足

1944年愛知県碧南市生まれ。神戸商科大学（現兵庫県立大学）卒業、同大学院経営学研究科経営学専攻修士課程修了。経済学博士（東北大学）。専門は原価計算論。

長崎造船大学（現長崎総合科学大学）助手などを経て1976年名城大学商学部にて講師として着任、89年同教授（2000年から経営学部教授）、97年商学部長、2007年キャリアセンター長など。

Contents

- 01-02 新学長就任メッセージ
- 03 名城大学通信の発行回数につきまして
- [緊急特集]
- 04-07 名城大学の
東日本大震災に対する取り組み
- 08-12 Campus News
- 卒業生永井選手がアジア大会で銀メダル
22団体と49人を学長表彰
「地域と共に生きる」で神戸シンポジウムを開催
第3回卒業30周年ホームカミングデイを開催
「科学技術創生館」が誕生
人間学研究科が誕生
交通科学科が「交通機械工学科」に
「SUBWAY」名城大学店がオープン
法学部が創立60周年記念式典
ハンドボール部が春季リーグ優勝
女子駅伝部谷水選手が1500mで優勝
春季リーグで硬式野球部が2位
エコノパワークラブが大学1、2位
柔道部(女子)が全国3位
クラブ成績
- 13-14 輝く卒業生
- Vol.32 谷崎勝久さん
- 有限会社ローヤル代表取締役、
HAIR SALON PREGO(プレーゴ)オーナー、
美容協同組合日本ヘアデザイン協会理事
- 15-20 平成22年度就職状況報告
- 21-22 平成22年度の表彰・入賞者(学外関係)
- 23-26 名城大学教育振興資金謝辞と寄付者ご芳名
名城大学教育振興基金ご協力をお願い
- 27-30 平成22年度 事業報告
- 31-32 学校法人名城大学の基本戦略について
- 33-34 平成23年度 事業計画
- 35-36 平成22年度 財務報告
- 37 平成23年度予算について
- 38 平成23年度 後期公開講座
- 39 名城大学スポーツ・文化後援会からのお知らせ
- 40-41 EVENT INFORMATION
- 「卒業30周年ホームカミングデイ」のご案内
名城大学管弦楽団 第27回定期演奏会
名城大学応援團吹奏楽部 創立40周年記念 第36回定期演奏会
名城大学入学センターからのお知らせ
有名城大学サービスからのお知らせ
- 42 輝く青春シリーズ
Vol.16 奇術部
- 名城大学Day中止のお知らせ

名城大学通信の 発行回数につきまして

名城大学通信はこれまで年3回発行してまいりましたが、今年度から夏と冬の年2回に、発行回数を変更させていただくことになりました。皆さまにはご不便をおかけいたしますが、さらに充実した誌面を目指しますとともに、ホームページでは随時最新情報をお届けしてまいります。今後とも変わらぬご愛読のほどを、よろしくお願い申し上げます。

緊急
特集

名城大学の 東日本大震災に 対する取り組み

3月11日に発生した東日本大震災で、
大学の学生に犠牲者はなかったものの、
2人の学生の実家が被害を受けました。
また、本学卒業生や教職員の中にも、
ご本人あるいはご家族やご親戚などが
被災された方々が大勢いらっしゃいます。
本学にとって、今回の震災は決して
対岸の火事ではなく、
どのような支援ができるかを
全学的に模索しています。
7月初めまでの取り組みをご紹介します。



「3万枚の奇跡 ～被災地に届け 私たちの思い～」の手作り回収ボックス。1日で箱からタオルがあふれる時もあった。
※現在はタオルの回収は終了しています。

緊急集会やフォーラムを 次々に開催

東日本大震災の被災者に対し、
名城大学としてどのような支援
ができるかを話し合う緊急集会
が4月8日に開かれました。死
者・行方不明者が2万人を超え
た戦後最大の震災被害に対し、
大橋正昭理事長と中根敏晴学長
が、学生、教職員に呼びかけて開
かれたもので、約400人が参加
しました。学生、教員、事務職員
が一堂に会しての集会は天白キャ
ンパスではおそらく初めてで、30
人を超す発言者が、被災者支援へ
の熱い思いを訴えました。進行を
務めた渋井康弘学務センター長
が「被災者支援の輪がどんどん
広がっています。人間って捨てた
もんじゃないと思います。これだ
けの人数が集まったのは誇るべき
ことです。大学だからこそできる
支援を考え、意見を出し合いま
しょう」と集会の狙いを説明。大
橋理事長も「全学でスクラムを組
めば支援の輪はさらに大きくな
る」と呼びかけました。中根学長
は「被災地の惨状に胸がつぶれる
思いです。戦後最大ともいえる危
機に何ができるか、大学としての
社会的責任と貢献が問われてい
ます」と指摘。その上で、生活支
援本部、教育支援本部、研究支
援本部を発足させ、義援金集め、

被災学生の受け入れ、ボランティアの単位化、単位互換、研究者支援などの支援策を検討し、取り組んでいく考えを明らかにしました。また、5月13日には緊急集会に続く第2回フォーラムとして復興支援が話し合わせ、震災発生直後の現地入りが続いて、4月末からはほぼ毎週、週末を中心に岩手県陸前高田市を訪れ、被災状況の調査にあつたっている都市情報学部



4月に行われた緊急集会。学生の積極的な参加が目立った。

の柄谷友香准教授（都市防災計画）が現状と課題について報告。その後、学生たちが現地でのボランティア活動をする場合に備えての情報収集のため4月20、21日に宮城県の気仙沼市、南三陸町、石巻市などを訪れた学務センター職員2人も報告を行いました。さらに、4月27日には人間学部が「震災を生き延びるために…災害と女性」をテーマにしたフォーラムを開催し、一般市民、本学や他大学の教職員、学生らおよそ30人が参加しました。参加者の中には、東日本大震災で被災して宮城県亘理郡山元町から名古屋市内に避難し、4月8日に行われた緊急集会で惨状を訴えた女性の姿も見られ、同じく肉親や親戚が被災した人間学部の天童睦子教授ら

席し、心構えなどを学んだ上で参加。また、参加者には破傷風予防ワクチンの接種が義務付けられました。2日にバス1台で出発した二行は14時間をかけて気仙沼市に着し、その後フェリーで大島に上陸しました。ボランティアは自分たちを識別するため、「絆」と書き込んだ青い布を腕に巻いて作業に取り掛かりました。田畑のれきを手でかき分けながら集め、断熱材や木、ガラス、ビニール類などに分別して、現地の人と二緒に車に積み込み、指定された場所に集めるといふ作業を中心に活動しました。滞在中は被災体験を聞く機会もあり、参加者からは「参加してよかった」「人生観が変わった」といった声が聞かれました。同月24日には大島での活動を報告する全学発表会が催され、復興支援活動に参加した学生と教職員が発表を行いました。

ボランティア協議会をはじめとする学生たちの取り組み

名城大学ボランティア協議会は卒業式や入学式の来場者あるいはキャンパスの学生、教職員に対し、募金を呼びかけました。集められた義援金のうち

33万6642円が7月4日、愛知県を通じて寄付されました（この他、都市情報学部などが独自に義援金を集めたり、農学部が天白区役所を通じて、中央共同募金会に寄付したりしています）。また、気仙沼市大島など被災地での復興活動のために、復興活動用のタオル集め「3万枚の奇跡」被災地に届け私たちの思い」というプロジェクトを立ち上げ、タオルの提供を呼びかけました（※）。これはタオル3万枚

（学生1人あたり2枚で達成）を目標にして集めようというものです。タオル集めは当初出足が悪く、苦戦を強いられましたが、本学の学生、教職員にとどまらず、途中からは卒業生や一般市民からも温かい申し出があり、6月に入ってから急激に回収数を伸ばしました。その結果、7月5日に目標の3万枚を達成しました。集められたタオルの一部は気仙沼市を含め、被災地の復興活動に役立てら

れました。タオルをご提供いただいた多くの方々から心温まるお手紙が同封されており、「今回の主旨に大賛成です」「活動の輪が名城生から一人でも多くの方々へ広がる事を願っています」「学生諸君の熱意に感銘し寄贈します」といった声を頂戴しています。 ※現在はタオルの回収は終了しています。



「よみがえれ大島」でのボランティア活動の様子。腕には青い布が見える。

気仙沼市大島でボランティア活動

6月2日から5日にかけて、学生、教職員合わせて36人が、宮城県気仙沼市の大島で清掃活動を中心としたボランティア活動を行いました。大島は宮城県北東部の気仙沼湾内に位置し、気仙沼港から船で30分ほどの離島です。「緑の真珠」と呼ばれた非常に美しいこの島は、人口およそ3200人のうち、死者・行方不明者約30人を出し、家屋の被害だけでなく、漁業は壊滅的な被害を受け、美しい砂浜もがれきで埋め尽くされてしまいました。もちろん、観光業も機能していない状態です。また、離島であるが故に、震災後から支援物資が届きにくいなどの状況が続きました。

ボランティアに参加した学生らは事前に行われた説明会に出



上) 5月に行われた第2回フォーラム。都市情報学部柄谷准教授による被災地報告。
下) 卒業式での募金活動の様子。ボランティア協議会の学生たちが献身的に呼びかけを行った。

① 震災対応の組織体制

名城大学では、名城大学ボランティア協議会の学生が中心となって在学生への対応をはじめ、義援金活動、支援物資の募集活動を行っています。また、全学的な取り組みとして、4月8日の「東日本大震災緊急支援集会」では、大学としてどのような支

援や取り組みが可能かを検討しました。

本学は、東日本大震災からの復興を支援するため「生活支援本部」「教育支援本部」「研究支援本部」を設置し、活動報告や取組状況などの最新情報をホームページで発信してまいります。

本部	本部長	取組内容
生活支援本部	学務センター長 今西 文武	①義援金、支援物資の提供 ②被災地での復興支援活動
教育支援本部	学務センター長 渋井 康弘	①被災地の大学との連携による教育支援 ②講演会・フォーラムの開催
研究支援本部	学術研究支援センター長 船隈 透	①被災地の研究者への施設・設備の貸し出し ②被災地の研究者との共同研究

② 入学生および在学生被災者への支援

本学は、学生の学業継続を支援する目的で、平成23年3月11日に東北地方太平洋沖と同月12日に長野県北部等で発生した地震において、被災した在学生に対して以下の支援を行いました。支援の内容は、学費年額（授業料、実験実習費、施設費）の免除、あるいは見舞金（年間生活費相当額）の給付で、自宅が半

壊以上（一部損壊を含まない）の被害を受け、生活に支障が生じたり、あるいは学費負担者の死亡等で生活維持基盤が喪失もしくは著しく減少したりしたことが条件です。

今回の制度に対し、1人の学生が申請を行い、学費免除が決定しました（2011年6月現在）。

③ 他大学学生への支援

東日本大震災で被災した地域の大学の学生の方が、東海地区等において就職活動を行う場合に、キャリアセンターが就職支援を行うため、被災地の大学の就職関係部署に案内を行いました。

これは、被災地の某大学から「就職で困らないよう、学生を名城大学で受け入れられないか」との問い合わせを受けて、検討した結果始まったものです。

支援の手段は、キャリアセンターの開放（就職に関する資料の閲覧、パソコンの利用、名城大学求人検索システムの利用）、就職相談（キャリアカウンセラーによるキャリア相談、就職活動全般に関する相談）、就職ガイダンスや学内企業セミナーへの参加（就職ガイダンスへの参加、学内企業セミナーへの参加）です。しかしながら、被災地の大学あるいは学生から利用の申し出はありませんでした（2011年6月現在）。

大地震に備えての対策について

名城大学では、昭和55年以前の旧耐震基準により建設された校舎を、2つの方法（1つはキャンパス再開発計画で校舎を建て替える方法、もう1つは耐震補強工事を行う方法）により、昭和56年以降の新耐震基準に適合するよう耐震化を進め、安全管

理に努めています。

また、従来の防災管理規程等を見直して、防火・防災管理規程の整備を行うとともに、地震防災マニュアルの作成を進めています。

Campus News

キャンパスニュース

卒業生の素晴らしい活動から新しい学生食堂のオープンまで、名城大学の様々な話題を一挙ご紹介。



写真:永井さん提供

ALUMNI

卒業生永井選手が アジア大会で銀メダル

昨年11月に行われた広州アジア大会で、セーリング競技レーザーラジアル級日本代表として出場した永井久規選手(豊田合成㈱、2002年3月理工学部卒)が見事銀メダルに輝きました。

レーザーラジアル級は小型1人乗りヨットを使用する種目です。永井選手はオリンピック種目であるレーザー級のナショナルチーム選手ですが、今回はアジア大会の種目で、レーザー級よりも一回り小さいレーザーラジアル級で金メダルを獲得するべく約6kgの減量と猛特訓の上で大会に臨みました。

大会5日目までは首位を守っていたもののタイの選手に逆転を許し、惜しくも銀メダルとなりました。

本学を表敬訪問した永井さんにお話を伺いました。なお、永井選手は2004年2月発行の名城大学通信「輝く卒業生」コーナーに登場しています。

銀メダルの感想をお聞かせください

一金メダルを目指していたので、「悔しい」の一言です。1か月前から強化練習に取り組み、自信を持って大会に臨んでいました。終盤まで守っていた首位をミスから明け渡し、逆転することができませんでした。

ただ、色は替わりましたが、メダルを持って帰ることが出来て、関係者の皆さんに喜んで頂けたことは良かったと思っています。会社(豊田合成)では、初のメダル獲得とこのことで良いニュースを報告できました。

日本代表に選ばれるまでの道のり(クラスの変更も含めて)は?

—2009年のレーザーラジアル級世界選手権で4位だった実績を買われ、代表に選ばれました。

レーザー級がオリンピック種目で、自分も普段はレーザー級で活動していますが、今回のアジア大会では、メダルを取りに行く戦略のため、クラスを変えました。そのための減量(79→73kg)は最後の2kgを落とすのに苦労しました。

普段の練習は?

—普段は陸上トレーニングを就業時間後に会社施設で、週末には海上トレーニングを自宅から程近い常滑で行っています。

アジア大会前は、苦しい情勢のなか会社の理解を得て、平日にも練習させてもらいました。今後もオリンピックを目指すべく、同様の配慮を頂く計画です。

今後の活動を教えてください

—2012年のロンドンオリンピック出場を目指します。レーザー級に戻るため、体重を増やしています。自分にとって、増量は減量より苦しいです。レーザー級はライバルが多く、体重を落としていたこともあって、しばらく勝っていませんでしたので、巻き返しを図りたいと思っています(セーリングは微風の場合を除き、体重が重いほうが有利だそうです)。

今後、代表を勝ち取るためにあらゆる努力をしていきたいと思っています。



銀メダルを手にする永井選手

**22団体と49人を学長表彰
—スポーツ・文化後援会の表彰も—**

平成22年度の学長表彰式が3月15日、名城ホールで行われ、22団体と49人が表彰を受けました。また同時に、スポーツ・文化後援会からも1団体と11人に対し表彰が行われました。

表彰式に先立ち、東日本大震災の被災者に対し、黙とうがさげられました。式の最後に下山宏学長(当時)は、受賞者に対する称賛と激励の言葉に続き、「今回の大震災で、皆さんが日本国民として、そして名城大学の学生としてできることを、ピア・サポートの精神にのっとり何ができるかを考えてもらいたい」と訴えかけました。

学長表彰に引き続き、スポーツ・文化後援会会長表彰が行われ、上林晃スポーツ・文化後援会会長から学生たちに賞状が手渡されました。



EVENT -----
**「地域と共に生きる」で
神戸シンポジウムを開催**

本学の教育研究成果を発信する学外シンポジウムが昨年12月11日、「地域と共に生きる」をテーマに神戸市中央区のANAクラウンプラザホテル神戸で開催されました。愛知県高浜市の森前市長、都市情報学部の柄谷友香准教授が講演。卒業生や一般市民、高校生ら約110人が参加、地域の方で大震災からの復興を果

たした地元ならではの関心の深さが伺えるシンポジウムとなりました。



森前市長

柄谷准教授

開会にあたり下山宏学長(当時)は、本学の紹介とともに「学外シンポジウムは2005年以来6回目ですが、こうした大学からの情報発信は、教育、研究に続く大学の第3の使命です」とあいさつ。森前市長は高浜市での5期20年の市長時代に取り組み、全国的にも先進事例として評価が高い福祉行政や市民協働によるまちづくりについて紹介し、「今年は所在不明の高齢者の問題が全国で相次いだり、生まれ育った地域の絆を大切にしたい」と述べました。

地元の尼崎市出身でもある柄谷准教授は、学生時代に自らも阪神・淡路大震災を体験したことを紹介しながら講演。愛知県岡崎市で2008年に発生した豪雨被害、鹿児島県さつま町で2006年に起きた同県北部豪雨水害での被災調査をもとに、「被災地での行政の対応には限界があり、地域リーダーを中心とした地域の力が重要」と指摘しました。質疑応答でも、神戸で大震災を体験した卒業生が「行政主導の復興に向けてのまちづくりでは限界があることを痛感した」と述べました。

会場には全国で唯一、環境防災科がある神戸市の兵庫県立舞子高校の生徒7人の姿も。2年生の笠井佑太さんも「被災地の再建には行政と市民が一体となって力を発揮することの大切さがよく分かった」と

話していました。

会場では本学が一昨年来取り組んできた「エコキャンパスプログラム」やボランティア協会の活動を紹介するパネルなども展示され、注目されました。

EVENT -----
**第3回卒業30周年
ホームカミングデイを開催**

昨年11月27日、天白キャンパスで、本学卒業(修了)後30年となる卒業生たちが集い、第3回卒業30周年ホームカミングデイが開催されました。

今回は昭和56年3月の卒業(修了)生167人が参加。恩師をはじめ、役員、教職員、校友会役員、それに在学学生を含めて総勢約330人での交流となりました。懐かしい学食体験、キャンパス見学会(天白、八事キャンパス)、記念写真コーナーなどの第1部企画のあと、第2部は卒業生バンド(昭和56年3月卒業生含む)と在学学生バンドによるウェルカムコンサートを開催。第3部ではコンサート出演者も含めた全員で懇親会を催し懇親、交流を深めました。

遠くは徳島県や千葉県からも参加があり、30年来の友人や懐かしい先生方との再会、新たに知り合った人との出会いもあり、そして、現在の大学の姿を目の当たりにして、卒業生と大学との絆を深める1日となりました。



**「科学技術創生館」が誕生
—150人が参加して完成披露式典—**

本学が産学官連携による研究交流を目的にした拠点施設として建設を進めていた「科学技術創生館」が完成し、3月3日、同館で完成披露式典が開催されました。同館は、2010年3月から総事業費約11億円をかけ、天白キャンパスに近い名古屋市天白区塩釜口2-1522の本学所有地で建設が進められてきました。

地上3階建て、延べ床面積1438平方メートルで、1階スペースには経済産業省の「先端イノベーション拠点整備事業」の採択を受けた「LED共同研究センター」が4月から稼働しています。

式典には経済産業省をはじめ、産学官からの来賓ら約150人が出席。大橋正昭理事長は「本学が経済産業省に申請した平成21年度産業技術研究開発施設整備事業としてLED共同研究センター設置事業が採択されましたが、政権交代や2度の事業仕分けを経て認可され、推進していただけることになり、大変嬉しく思います」とあいさつしました。本学大学院理工学研究科の赤崎勇教授による「LED共同研究センターへの期待」のメッセ



科学技術創生館

ージも紹介され、東京工業大学の高橋清名名誉教授は「青色発光ダイオードの世界初の発光に成功した赤崎先生の偉業に次ぐ第2、第3の赤崎先生を生み出す知の殿堂になってほしい」と祝辞を述べました。

EDUCATION -----
人間学研究科が誕生

今年4月、大学院人間学研究科(修士課程)が誕生しました。これにより、本学の研究科数は11になりました。

同研究科は、入学定員8人、2年間の修士課程です。人文系の学問を総合的に学ぶことで「実践的な教養人の育成」をめざす人間学部の基本コンセプトを継承しながらも、それをもう一段高め、より高次の実践性とそれを支える上で必要な知識を学ぶことを目標としています。「心理」「社会・教育」「国際・コミュニケーション」の3つをキーワードに、他分野の履修をも通して人間をめぐる学際的、複合的な理解を深めます。

**交通科学科が「交通機械工学科」に
—受験生によりわかりやすく—**

理工学部交通科学科は、自動車、航空機、鉄道車両、エンジンなど「機械」というキーワードを前面に出し、今年4月から「交通機械工学科」に名称を変更しました。

「交通機械」に軸足を置きながら、時代の要求に呼応すべく「知的もの作り」を目標に、ハード面のみでなく、ソフト面も重視した視野の広い教育・研究へと移行します。最近では、高度な技術を用いてより高性能な自動車や航空機などを作ればよいというだけでなく、安全性・再利用を含めた環境や福祉などを十分に考慮した「もの作り」が急務となってきています。特に「交通機械」は、人命に大きく関わっており、機械一般の基礎知識を教育するだけではなく、創造力と人間性豊かなエンジニアを育てることを目的としています。この目的達成のために、物理学や数学などの知識を基礎にした力学系科目を十分習得することと、さらに柔軟な想像力や思考力の高揚につながるよう、ものに触れることによって技術を体験する「実感教育」を取り入れています。

TOPICS -----
SUBWAY名城大学店がオープン

4月5日、新鮮野菜を前面に出し世界展開するサンドイッチチェーン「SUBWAY(サブウェイ)」が、昨年8月に撤退したマクドナルド名城大学店跡にオープンしました。サブウェイは今年3月、マクドナルドを抜いて店舗数で世界第1位となった、世界最大の飲食店チェーンです。

注文のシステムでは、ベースとなるメニューを選び、パン、トッピング、野菜、ドレッシングを好みに合わせて自由に組み合わせることができます。えびアボカド、BLT、チーズローストチキンなどの人気メニューに加えて、オープンポテトやドリンクなどのサイドメニューをそろえています。さらに、月曜日から金曜日まで「名城大学スペシャルランチサンド」として、曜日替わりのサンドイッチとドリンクかポテト(あるいはその両方)のセットも450円または500円でリーズナブルに提供されています。

また、組み合わせにもよりますが、野菜をメイン食材にしているためサンドイッチは218kcalから高くても387kcalで、ポテトもオープンで焼くことで160kcal前後と低カロリーなものも大きな魅力です。

サブウェイは、月曜から金曜までの午前10

時から午後7時まで営業しています(通常営業の場合。夏休みなどは休業)。



SUBWAY 名城大学店

EVENT -----
法学部が創立60周年記念式典

1950(昭和25)年に法商学部として開設された法学部が創立60周年を迎え、昨年11月28日、名古屋市中区の名古屋観光ホテルで記念講演会と式典、祝賀会が行われました。

約150人が参加した式典で木村裕三法学部長(当時)は、「先輩たちの築いた伝統に支えられての60年でした。不安や疑問を消極的に考えず、エネルギーとして我が国を担う若者たちを育てていきたい」とあいさつ。大橋正昭理事長は法学を学ぶことの意義を指摘したうえで「60年という還暦を機に新しい歴史を切り開いてほしい」、下山宏学長(当時)も「60年の歴史をさらに発展させて次世代を背負う学生たちを育ててほしい」とそれぞれ祝辞を述べました。

祝賀会では卒業生を代表して法学部同窓会長の高橋祐次さんがあいさつ。「私の入学した1963(昭和38)年当時は15の学生寮があった。私は山形県出身だが、寮内は全国各地の方言が飛び交い活気にあふれていた」と学生時代を振り返りながら「法学部はこれまでに3万5000人を超す卒業生を送り出してきたが、永遠に発展してほしい」とエールを送りました。この後、篠田四郎法務研究科長の乾杯の音頭で祝宴に移り、和やかな雰囲気の中で60周年を祝いました。

式典、祝賀会に先立ち行われた「地域主権改革とローカル・ルール」をテーマにした記念講演会では中央大学法学部の磯崎初仁教授が基調講演。講演を受けて磯崎教授、都市情報学部の昇秀樹教授、法学部の安本典夫教授によるシンポジウムが法学部の伊川正樹准教授の進行で行われました。



クラブ成績報告

所属	クラブ名	開催期間	場所	大会・試合の成績、結果
体	卓球部	12月18～19日	天白スポーツセンター 他	第16回名誉会長杯争奪東海学生卓球大会 <男子>予選トーナメント1位通過 決勝トーナメント1回戦敗退、<女子>予選トーナメント2位通過 決勝トーナメント1回戦敗退
体	テコンドー部	11月21日	岐阜メモリアルセンター	第2回全日本学生大会 <マイクログ>2位【理2・石田陵】、<ライト級>3位【理3・中島正登】、<ヘビー級>2位【法2・竹内貴洋】
体	日本拳法部	11月7日	千種スポーツセンター	第22回中部新人日本拳法個人選手権大会 <1級・初級の部>優勝【法2・若山大知】、準優勝【農2・谷口勝国】、<2級以下の部>3位【理2・鈴木大輝】
体	バーベルトレーニング部	12月5日	名城大学新体育館	第22回中部学生秋季パワーリフティング選手権大会 <団体>優勝、<女子52 ^{kg} 級>1位【理2・番詩織】、<女子56 ^{kg} 級>1位【理3・武藤佳子】、<秋季女子67.5 ^{kg} 級>1位【理2・竹内あい】、<男子67.5 ^{kg} 級>1位【農2・丹羽将】、<男子100 ^{kg} 級>1位【法4・山口勝司】 第39回中部学生パワーリフティング新人選手権大会 <団体>優勝、<男子60 ^{kg} 級>1位【理1・武田陽介】、<男子67.5 ^{kg} 級>2位【理1・寺本泰介】、<男子75 ^{kg} 級>1位【理1・市川翔】、<男子52 ^{kg} 級>1位【理1・石井宏典】、<男子56 ^{kg} 級>1位【理1・寺川大貴】、<男子82.5 ^{kg} 級>1位【理1・岩月亮祐】、<女子52 ^{kg} 級>1位【農1・中西千晶】
体	バドミントン部	12月6～11日	天白スポーツセンター 他	第112回東海大学・第32回東海学生新人バドミントン選手権大会 <男子2部団体>3位、<女子2部団体>2位
体	ボクシング部	11月6～14日	稲沢市総合体育館	中部学生新人戦 <F級>準優勝【法3・岡田仁志】
体	洋弓部	10月31日	岡崎総合運動公園	2010年度瀬尾杯アーチェリー大会 <男子>3位【農3・細川紘平】、<女子>2位【人3・山口茜】、3位【農3・大森礼子】
体	ライフル射撃部	11月20～21日	愛知県総合射撃場	第39回中部学生ライフル射撃新人戦・第16回中部学生ライフル射撃射撃不朽戦・第2回中部学生ビームピストル競技記録会 <10mS60(BR)>1位【農1・大須賀まい】、2位【理3・山田哲郎】、<10mS60(AR)>3位【理3・山田哲郎】、<10mS40>1位【理3・山田哲郎】、<10mS60>FINAL3位【理3・山田哲郎】
体	ラクロス部	8月28日～11月7日	瑞穂公園北陸上競技場	第19回東海学生ラクロスリーグ戦 優勝
体	ラグビー部	11月7～21日	瑞穂ラグビー場	東海学生リーグ戦 <決勝リーグ>3位(1勝2敗)
体	陸上競技部	12月12日	庄内緑地公園周回コース	駅伝カーニバル兼2011年第65回名岐駅伝競走大会予選会 総合3位(名岐駅伝出場権獲得)
		2月20日	岐阜県大垣市浅中公園	田口福寿杯第32回中日西濃駅伝競走大会 総合13位
	スケート部	12月11日	日本ガイシアイスアリーナ	平成22年度愛知県ショートトラックスピードスケート選手権大会 <500m>2位、<1000m>2位、<1500m>17位 すべて【済4・佐藤弘章】
		3月5日	大阪プール	第59回関西学生水上競技会 <500m>2位、<1000m>2位 ともに【済4・佐藤弘章】
オ	将棋部	11月20～28日	北生涯学習センター 他	秋季中部学生将棋大会 <団体戦>優勝、<個人戦>優勝【法2・吉田陵平】
		12月23～26日	四日市市文化会館	第41回学生王座戦(団体)・第38回全日本学生将棋十傑戦(学生王将戦(個人))<団体戦>10位、<個人戦>5位【法2・吉田陵平】
オ	舞踏研究会	10月31日	大同大学滝春校舎	第42回東西対校学生競技ダンス選手権大会 <ワルツ>3位<クイック>1位【法4・村澤俊也】、<ワルツ>4位<フォックス>6位【法2・新美一輝】、<チャチャ>6位<サンバ>6位【法3・金原亮司】、<ルンバ>13位【理M1・鈴木隆暢】、<タンゴ>9位<フォックス>11位【理2・岡俊宏】
		12月12日	獨協大学	第55回全日本学生競技ダンス選手権大会 <フォックスの部>5位【法2・新美一輝】、<クイックの部>5位【法4・村澤俊也】
理	エコノパワークラブ	10月9～10日	ソインリンクもてぎ	Hondaエコマイレージチャレンジ2010第30回全国大会 <グループⅢ>1位(MEGV-2004号)
		10月30～31日	千葉県 日本自動車大学校	WEMC in NATS 2010 <総合>5位、<オープンクラス>4位、<大学の部>1位
理	空手道部	12月19日	三重県 あさけプラザ体育館	第37回日本空手道松濤館連合個人戦選手権大会 <組手>優勝【理2・秋田真和】
部	軟式野球部	11月19～25日	八王子市民球場	東日本学生軟式野球選抜大会 準優勝、敢闘賞【都2・羽柴啓祐】
業	ソフトボール部	10月16日～11月23日	刈谷市双葉グラウンド 他	平成22年度秋季男子67回東海地区大学ソフトボールリーグ戦 <3部リーグ>3位
業	ソフトテニス部	11月6～7日	瀬戸市民公園A・Bコート 他	秋季東海医歯薬大会 <団体戦>優勝、<個人戦>準優勝【業3・宮松大貴】【業4・天本康介】
業	卓球部	11月27日	大阪薬科大学体育館	秋季四薬卓球大会 <男子シングルス>3位【業5・服部友哉】
業	男子バレー部	12月5日	大阪薬科大学	六薬戦 3位
	囲碁部	11月6～7日	日本棋院中部総本部	第54回全日本大学囲碁選手権大会(団体戦)中部地区秋季予選 2位

※赤字は全国大会もしくは世界大会

体……体育会 オ……オール名城文化局 理……理工学部文化・学術クラブ 部……都市情報学部 業……薬学部体育会

CLUB

ハンドボール部が春季リーグ優勝

ハンドボール部が東海学生春季リーグにおいて2年ぶりの優勝を果たしました。

今回から試合数を増やすため、1リーグ10チームで戦うことになり、接戦や引き分けが増えました。その中で、本学とともに愛知4強といわれる中京大学、中部大学、大同大学に接戦の末競り勝ち、9戦全勝で優勝を決めました。

なお、最優秀選手賞には柳野郎選手(法学部4年)が選ばれ、ベストセブン賞には主将の日比野起年選手(法学部4年)、中村領佑選手(法学部3年)、星川晃一選手(農学部3年)が選ばれました。



CLUB

女子駅伝部谷水選手が1500mで優勝

5月28日、女子駅伝部の谷水見圭選手(法学部4年)が、宮崎県延岡市で陸上の中長距離を競う「ゴールデンゲームズinのべおか」の女子1500mに出場し、4分24秒54で優勝しました。

なお、この大会には女子駅伝部の他選手や社会人選手として活躍するOG



優勝した谷水見圭選手(写真は別大会のものです)

クラブ成績報告 [3月31日終了分まで]

所属	クラブ名	開催期間	場所	大会・試合の成績、結果
体	ウェーデルンスキー同好会	2月21～26日	長野県	東海学生基礎スキー選手権大会 <新人戦女子>ブリークボーゲン>1位【農1・畑上采織】
体	弓道部	12月4～5日	日本ガイシスポーツプラザ弓道場	第47回東海学生弓道新人戦 <男子団体>優勝
体	サイクリング同好会	12月12日	リトルワールド	リトルワールドサイクルミーティング第5戦 <ビギナークラス>3位【理1・高島峻】
体	自動車部	10月24日	岐阜県高鷲村ダイナランドスキー場	2010年度全中部学生ジムカーナ選手権新人戦 <団体>1位 <個人>1位【理3・菱谷一真】、2位【理3・太田達哉】、3位【理2・橋倉峻祐】
		11月21日	愛知県武道館	第58回東海学生冬季優勝大会 優勝
体	柔道部	11月27日	愛知県武道館	第3回東海学生女子柔道冬季優勝大会 3位
		12月3～5日	松任総合運動公園柔道場	第7回湊谷杯全国学生柔道体重別選手権大会 <81^{kg}級>2位【人2・花田光】、<66^{kg}級>3位【営1・村本良太】
体	少林寺拳法部	12月12日	名古屋商科大学	第7回東海学生少林寺拳法新人大会 <単独演武女子段外の部>2位【法2・上田祐香里】
体	女子駅伝部	11月17～23日	オランダ ネイメーヘン近郊	ABN AMROゼノンヒューベレン・ループ15K・2010 3位【法3・野村沙世】、4位【法2・小田切亜希】
		12月5日	知多半島	第3回東海学生女子駅伝対校選手権大会 <名城A>1位【法2・亀山絵未】【法3・谷水見圭】【法3・野村沙世】【法2・八木絵里】
体	水上競技部	3月6日	愛知学院大学スポーツセンタープール	中部学生春季室内選手権水泳競技大会 <男子50m自由形>3位【農2・森一真】、<女子50m自由形>5位【人2・熊澤綾那】
体	スキー部	1月28～30日	白馬岩岳スキー場	第56回中部日本学生スキー選手権大会 <大学対校>総合5位
		2月16～24日	白馬岩岳スキー場	第84回全日本学生スキー選手権 <男子3部>総合22位

選手も女子5000mで多数出場し、健闘しました。

谷水選手はその後、6月11日に埼玉県で行われた第95回日本陸上競技選手権大会にも出場、決勝進出を果たしました。

CLUB

春季リーグで硬式野球部が2位

一河野選手が新人賞を獲得一

愛知大学野球春季リーグは日程を終了し、1部の本学硬式野球部は勝ち点を3として2位になりました。新人賞には河野清太郎投手(法学部1年)



新人賞を獲得した河野清太郎投手

が選ばれました。なお、河野投手は、リーグ終了後、日米大学野球代表候補にも愛知大学野球リーグから唯一、また1年生としても唯一選ばれました。

本学硬式野球部は引き分け1試合のほか、1点差が6試合(うち4勝)、2点差が2試合(うち1勝)といくつもの接戦を戦い抜きました。1部に復帰した直後の前年度の秋季リーグで3位、そして今回が2位と早くも順位を上げてきています。2006年以来の頂点まであと少しです。

CLUB

エコノパワークラブが鈴鹿でのレースで大学1位、2位を独占

6月18日、三重県の鈴鹿サーキットで「Hondaエコマイレージチャレンジ2011第25回鈴鹿大会」が開催され、名城大学



エコノパワークラブの省エネカーが2台出場しました。雨天の中、滑りやすい路面状況で1台が高速スピンを起しましたが、コース上でたて直し、2台とも完走。クラス1位、2位を獲得しました。

エコノパワークラブは準強化クラブに認定されており、同クラブにとって認定後初の快挙となりました。

CLUB

柔道部(女子)が全国3位

一平成23年度全日本学生柔道優勝大会一

6月25日、日本武道館で開催された平成23年度全日本学生柔道優勝大会(女子3人制)において、昨年準々決勝で敗れた福岡工業大学に1-0で勝利、見事3位に入賞しました。また、優秀選手に小城西選手(法学部2年)が選ばれました。

なお、男子は世界チャンピオンを擁する優勝候補の一角、古豪明治大学に敗れはしたものの大健闘し、今後の飛躍に向け確かな一歩を踏み出しました。





あるトップスターが実際に舞台上で使ったかつらを手にする谷崎さん。タカラヅカファンなら垂涎の的です。

輝く卒業生

Vol. 32

たにざきかつひさ
谷崎勝久さん

有限会社ローヤル代表取締役、
HAIR SALON PREGO(プレーゴ)オーナー、
美容協同組合日本ヘアデザイン協会理事

学生時代はどのように過ごされていましたか

名城大学在学当時、先進分野として注目され始めていた太陽電池を研究しており、中村校舎の屋上に並べられた太陽電池パネルのメーカーを眺める日々でした。勉強以外では、下宿先の仲間とともに名城大学理工合唱団(後に廃部)を立ち上げました。歌うことよりも演出や広告取りなどの裏方に関心がありました。今でも名城理工合唱団の名称で東海地区のOBが集まり、活動しています。

「黄綬褒章」などを受章。目標に近づくための努力を惜しまない。

熱烈なファンに愛され続ける「宝塚歌劇団」。その華やかな世界で、衣装、メイクなどとともに演出を彩る上で重要なものが舞台かつらです。もともと美容師としての道を歩んでいた谷崎さんにとって、宝塚歌劇との出会いはその後の運命を大きく変えていきました。現在、美容院のオーナーの他、舞台かつら製作の第一人者、さらに日本ヘアデザイン協会理事としても活躍の谷崎さんを、大阪市北区のホテル内にある美容院「PREGO(プレーゴ)」に訪ねました。



経営するPREGO中津店の前で。兵庫県内にもお店があります。

美容の道に進もうとしたのはなぜですか

大学3年の春に、実家の美容院が大阪の淀屋橋に出店するというところで工事現場を見に行きました。それまでほとんど美容院に入ったことがなかったのですが、置いてあった美容雑誌を見て自分でヘアデザインすることに興味を覚え、通信教育で美容を学び始めました。

大学4年生になり、電機メーカーから内定をもらいましたが、悩んだ末に進路を変更し、美容の道に進むことを決意しました。卒業後、実家の美容院で働く傍ら、当時は珍しかった男性美容師に師事して技術を学びました。

タカラジェンヌのかつらを作るようになったのはなぜですか

美容師になってから18年後、友人に誘われて初めて宝塚歌劇を見に行きました。それまでは「自分には関係のない世界」と思っていました。その時に生徒(タカラジェンヌ)を紹介されたことをきっかけに、彼女たちが私の店を利用するようになりました。最初はただのお客さんだったのですが、カラー(毛染め)を行う際、舞台かつらと地毛の色合わせをする必要性から、舞台かつらの製作を依頼されました。



あるトップスターが実際に舞台上で使ったかつらを手にする谷崎さん。タカラヅカファンなら垂涎の的です。

しかし、舞台かつらはおろか、普通のかつらでさえ作ったこととはなかった。独学で何度も失敗を繰り返しながら舞台かつらを作りました。

かつら作りが軌道に乗り、やがて宝塚歌劇団と契約を結びました。かつら製作は順調でしたが、美容院の仕事を終えてから作り始めるので、気付いたら翌朝ということがしばしばありました。現

なぜタカラジェンヌたちに受け入れられたのですか

軽量化するために発泡スチロールを入れるなどの工夫をしました。その結果、長時間着けていても負担が少なく、激しい動きにも絶対に外れないものになったのです。さらに、照明の当たり方にも考慮しながら、グラム単位で染毛剤を調合しました。これらの発想には、大学時代に培った理系ならではの視点が大いに役に立つたと思っています。

OBとして在学生にひとことお願いします

目標を持って、それに近づく努力を常にすることがとても大事です。私の場合は、美容師を志した時には「美容雑誌に載るような一流美容師になろう」、舞台かつらを作る時には「自分のかつらが一番良かった」と言ってもらいたい」という目標を持ちました。「棚ぼた」という言葉がありますが、普段から努力していないと、落ちてくる「ぼたもち」を拾うことは出来ません。これはタカラジェンヌも同じですね。後ろの方で踊っている者たちは「もつと前で、もつと中央で」という夢をかねるために、常に努力をしています。

これからもかつらの製作と後進の指導に力を注いでいきたいという谷崎さん。多くのタカラジェンヌたちから得てきた大きな信頼は、谷崎さんが積み重ねてきた努力の賜物です。これからも素晴らしい技術で観客を魅了し続けることでしょう。



「女性歌劇の聖地」宝塚大劇場

「現代の名工」や「黄綬褒章」を受与された感想を教えてください

まさかそのような名誉なものを次々といただけるとは夢にも思いませんでした。「タカラヅカ」と

谷崎 勝久さん

大阪府出身。1967年3月理工学部一部電気工学科卒。大学在学中に、実家の美容院にあった美容雑誌を見て美容の世界に興味をもつ。卒業後、下積みを経て実家を継ぐ。宝塚歌劇の観劇をきっかけに美容院にタカラジェンヌが足を運ぶようになり、やがて舞台用のかつら製作を依頼される。独学で手法を学び、試行錯誤の末、独自のアイデアで軽量化や舞台上で瞬間に髪型を変化させる「谷崎式ヘアチェンジ」の開発に成功。2007年に厚生労働大臣賞「現代の名工」、2010年に黄綬褒章を異例の早さで授与される。



平成22年度 就職状況報告

リーマンショック以降、出口の見えない就職環境の中、苦戦しながらも逆境に立ち向かった名城大生の平成22年度就職状況を報告します。

平成22年度新卒採用の背景には、「1.雇用の回復傾向」「2.企業の大学選び」「3.徹底した質重視の採用方針」の3つの要因がありました。

「1.雇用の回復傾向」は、4月以降から徐々にみられました。3月までの求人数は、前年同月比較でマイナスでしたが、4月以降の前年同月比較は、すべての月でプラスに転じました。残念ながら、平成22年度の総求人約7割は、3月までに大学へ送られてきます。残りの3割分が4月以降に寄せられますので、全体としては、マイナスとなつていきます。年度の途中に、円高、株安など、先行き不透明な中で緩やかに回復してきたといえます。

職情報サイトから募集をかけたときのエントリー数は、例年の1.5倍から2倍、多いところでは3倍になるほどでした。企業側も学生の絞り込みに苦労



する状況から、自社ホームページや就職情報サイトを通じての追加求人公募を控える傾向がありました。その結果、大学を選んで直接求人を出す企業が増えた年でした。9月以降の求人については、都市圏の大学は、前年比増に対して、郊外の大学は減となる状況でした。

「3.徹底した質重視の採用方針」については、就職氷河期に採用を極端に抑制した結果、多くの企業で「失われた世代」として当該年齢層の人材不足が大きな問題となりました。その反省から、新卒採用は景気の変動に関わらず継続して行い、一定の採用人数を維持していくべきとの認識が企業に広く浸透しています。但し、一定の採用人数を確保する中で、マスコミでも取り沙汰された通り、外国人留学生の採用を進めていく動きがありました。この目的は、単にグローバル対応の人材獲得というだけでなく、「国籍を問わず優秀な人材確保」を目的として、「質」の良い学生確保を目指す企業の採用方針の表れでした。



このように、質重視の採用方針が強まる中で、就職活動が、少し上手くないかだけでなく、意欲低下に繋がるのではないかと心配されました。しかし、緩やかな「雇用の回復傾向」と「企業の大学選び」の中に本学も含まれ、4月以降の求人が、前年同月比較で増えている状況を就活生に伝えることにより、学生の就職意欲を最後まで持ちこたえる要因になりました。マスコミでは、「就職

内定率過去最悪級」と報じられていましたが、本学の最終的な就職率は、前年度を若干上回る結果となりました。

本学全体の就職率[※]は、

83.1%

(前年度81.9%)

前年度比1.2ポイント増

※卒業生数から大学院進学者数を除いた数に対する就職率

「今年度がダメなら来年度」は危険

平成23年度の就職戦線は、ご存知のとおり、首都圏を中心とした電力供給の逼迫等による企業活動の停滞により、今後どの程度影響が出るか不透明であり、中部電力の浜岡原子力発電所の運転停止によって、中部圏への今後の影響も大きな不安材料となっており、厳しい就職戦線のスタートとなりました。

昨今、卒業後3年までは、新卒扱いで就職活動ができる企業が増えていくと報道されています。この報道により、全国的に就職浪人が増加すると推測できます。そこに、翌年の就活生が加わり就職希望

者が増加します。しかし、採用枠の拡大の確証はありません。また、留年すれば、企業には留年理由を質問され、留年分の成長を問われるなど、有利なことばかりではありません。これらのことから、簡単に就職浪人を考えることは危険です。できる限り、最後まで粘って、年度末までに就職を決めることが望まれます。

年度末は、求人企業数は少ないものの競争相手も少なくなり、この時期に、内定が出ない就活生は、翌年になれば更に厳しい状況が待っています。「就活年度は1回限り」と強く心に留

め、途中で投げ出さず、最後まで粘り強く取り組む事ができる就活生を企業は望んでいるはずですよ。

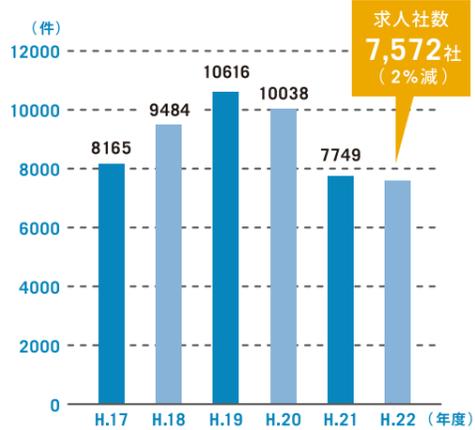
名城大学の求人・就職状況

1 名城大学への求人状況

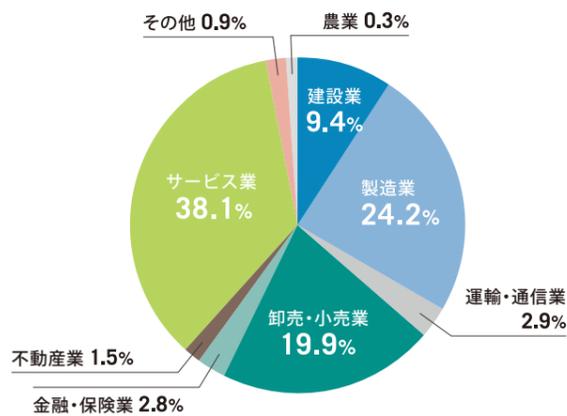
平成22年度の求人数は、7,572社(平成21年度7,749社)で前年度2%減となり、3年連続の減少となり

ました。(図1) 業種別求人状況では、サービス業38.1%、製造業24.2%、卸売・小売業19.9%、その他となっており、幅広い業種から求人がありました。特に、サービス業、製造業、卸売・小売業および建設業の求人割合が高い結果となっています。(図2)

(図1) 求人数



(図2) 業種別求人状況



平成22年度 主な就職先

法学部	(株)愛知銀行 / イチビキ(株) / (株)大垣共立銀行 / 岡崎信用金庫 / 尾張中央農業協同組合 / (株)シーテック / (株)十六銀行 / 住友電装(株) / (株)スズケン / 瀬戸信用金庫 / (株)第三銀行 / (株)中京銀行 / (株)デンソー / 東濃信用金庫 / (株)名古屋銀行 / 名古屋高速道路公社 / 西日本旅客鉄道(株) / 日本生命保険相互会社 / 林テレンプ(株) / (株)百五銀行 / (株)三菱東京UFJ銀行 / 愛知県警察本部 / 愛知県市町村立小中学校職員 / 朝日町役場 / 神戸町役場 / 下呂市役所 / 静岡県警察本部 / 中津川市役所 / 名古屋市消防局 / 扶桑町役場 / 三重県警察本部 / 四日市市役所
経営学部	アイシン・エイ・ダブリュ(株) / (株)アルペン / エスピー食品(株) / (株)大垣共立銀行 / 岐阜信用金庫 / (株)三和化学研究所 / (株)十六銀行 / 瀬戸信用金庫 / トヨタホーム名古屋(株) / トヨタL&F中部(株) / 豊橋信用金庫 / 東海東京証券(株) / 日本メナード化粧品(株) / 西日本旅客鉄道(株) / 日興コーディアル証券(株) / (株)パロマ / 浜松信用金庫 / 富士ゼロックス愛知東(株) / 福井信用金庫 / (株)プロコポレーション / ホーユー(株) / ホンザキ東海(株) / (株)星野リゾート / (株)三菱東京UFJ銀行 / (株)ユーフィット / YKK(株) / 愛知県警察本部 / 揖斐郡消防組合 / 大台町役場 / 三重県警察本部 / 南知多町役場
経済学部	アサヒグローバル(株) / 愛三工業(株) / 岡崎信用金庫 / 北伊勢上野信用金庫 / 小林薬品工業(株) / CKD(株) / (株)スズケン / 住友生命保険相互会社 / セクスイハイム中部(株) / 瀬戸信用金庫 / 大和ハウス工業(株) / タカラスタンダード(株) / ダイドー(株) / 大和証券(株) / (株)中京銀行 / 東邦ガス(株) / トヨタカローラ名古屋(株) / 豊田信用金庫 / 豊川信用金庫 / (株)長野銀行 / 西日本旅客鉄道(株) / ホーユー(株) / (株)北陸銀行 / (株)三井住友銀行 / 名鉄観光サービス(株) / 郵便局(株) / 愛知県警察本部 / 一宮市役所 / 岐阜県警察本部 / 静岡県警察本部 / 東郷町役場 / 東海市役所 / 三重県警察本部
人間学部	旭化成ホームズ(株) / 愛知日産自動車(株) / (株)愛知銀行 / (株)あらた / いちい信用金庫 / (株)大垣共立銀行 / (株)オータケ / 岡崎信用金庫 / ぎふ農業協同組合 / 桑名信用金庫 / 学校法人聖徳学園 / 住友電装(株) / 生活協同組合コープあいち / 瀬戸信用金庫 / タキヒヨー(株) / 第一生命保険(株) / 凸版印刷(株) / 豊田合成(株) / トヨタL&F中部(株) / 東濃信用金庫 / なごや農業協同組合 / (株)ノリタケカンパニーリミテド / 飛騨農業協同組合 / 学校法人藤田学園 / (株)三重銀行 / (株)メニコン / 名鉄観光サービス(株) / 明治安田生命保険相互会社 / 愛知県警察本部 / 警視庁 / 豊橋市消防本部 / 東浦町役場
都市情報学部	アイシン・エンジニアリング(株) / 愛知西農業協同組合 / (株)NTTデータ / (株)大森廻漕店 / 尾張中央農業協同組合 / 岐阜乗合自動車(株) / ケイティケイ(株) / (株)岐阜銀行 / (株)サンドラッグ東海 / 敷島製パン(株) / (株)システムリサーチ / 住友電装(株) / (株)セイノー情報サービス / 大和冷機工業(株) / (株)中電シーティーアイ / 中電配電サポート(株) / (株)豊通システム / 東海東京証券(株) / 東邦ガス情報システム(株) / (株)ニッショー / 日本ソフト開発(株) / 日本電子計算(株) / (株)フォーバル / 郵便局(株) / (株)ユーフィット / 豊ハイテック(株) / リコーテクノシステムズ(株) / (株)ワークスアプリケーションズ / 岐阜県警察本部 / 各務原市消防本部
理工学部	アイシン・エイ・ダブリュ(株) / アイシン・エーアイ(株) / アイシン・エンジニアリング(株) / アイシン化工(株) / アイシン開発(株) / アイシン機工(株) / アイシン高丘(株) / アイシン精機(株) / アイホン(株) / 愛知時計電機(株) / アンデン(株) / 鹿島建設(株) / 河村電器産業(株) / 京セラ(株) / 清水建設(株) / ジェイアール東海建設(株) / (株)ジェイテクト / シャープ(株) / 住友林業(株) / 住友電装(株) / スズキ(株) / 積水ハウス(株) / 大成建設(株) / 大同メタル工業(株) / 大日本コンサルタント(株) / 中部電力(株) / (株)中電シーティーアイ / (株)デンソー / デンソーテクノ(株) / (株)トーエネック / 東海ゴム工業(株) / トヨタ紡織(株) / 豊田鉄工(株) / 豊田合成(株) / トヨタ車体(株) / トヨタ自動車(株) / 東京電力(株) / 東海旅客鉄道(株) / (株)トヨタコミュニケーションシステム / (株)トヨタデジタルクルーズ / トヨタテクノカルディヘルプメント(株) / 日本電話施設(株) / 日本特殊陶業(株) / 日本車輛製造(株) / 任天堂(株) / 西日本旅客鉄道(株) / (株)ノリタケカンパニーリミテド / (株)パロマ / 日立オートモティブシステムズ(株) / 東日本旅客鉄道(株) / ホンザキ電機(株) / 豊生ブレーキ工業(株) / 三菱重工業(株) / 三菱電機エンジニアリング(株) / 矢崎総業(株) / (株)ユタカ技研 / 愛知県庁 / 犬山市役所 / 刈谷市役所 / 岐阜市役所 / 小牧市役所 / 名古屋市役所 / 名古屋市教育委員会 / 三重県庁
農学部	アストラゼネカ(株) / 伊藤ハム(株) / (株)鎌倉ハム / コーミ(株) / 佐藤食品工業(株) / 塩野義製薬(株) / 全国共済農業協同組合連合会 / 中電興業(株) / 豊通エネルギー(株) / 名古屋製酪(株) / 中北薬品(株) / 公立大学法人名古屋市立大学 / 名古屋園芸(株) / 日本食研ホールディングス(株) / (株)浜乙女 / フジパングループ / ホーユー(株) / 丸信製粉(株) / 三重県農業協同組合中央会 / 明治チューインガム(株) / 山崎製パン(株) / (株)ユニバーサル園芸社 / 郵便局(株) / (株)両口屋是清 / 愛知県教育委員会 / 愛知県厚生農業協同組合連合会 / 愛知県市町村立小中学校職員 / 羽島市役所 / 岐阜県教育委員会 / 小牧市役所
薬学部	味の素ファルマ(株) / アストラゼネカ(株) / (株)アラクス / 安城更生病院 / エーザイ(株) / 大塚製薬(株) / 春日井市民病院 / 刈谷豊田総合病院 / 協和ケミカル(株) / 公立陶生病院組合 陶生病院 / 社会福祉法人聖隷三方原病院 / (株)スギ薬局 / (株)スギヤマ薬品 / (株)スズケン / 第一三共(株) / たんぽぽ薬局(株) / 独立行政法人 名古屋医療センター / 豊川市民病院 / トヨタ記念病院 / 名古屋掖済会病院 / 名古屋記念病院 / 名古屋大学医学部附属病院 / 日本調剤(株) / 明治製菓(株) / 藤田保健衛生大学病院 / ノバルティスファーマ(株) / 山田赤十字病院 / 四日市社会保険病院 / 愛知県庁 / 名古屋市役所

※大学院を含む ※薬学部:6年制への移行により、平成20年度就職状況を掲載



2 名城大学の就職状況

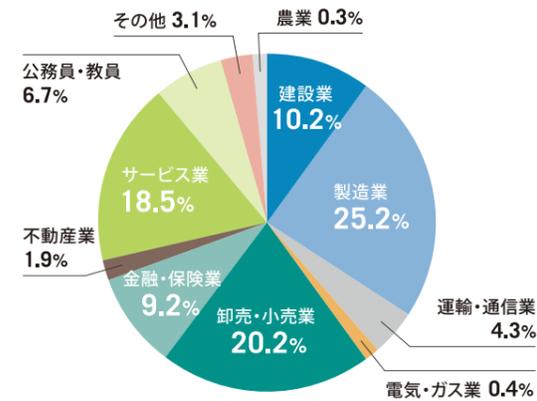
厚生労働省および文部科学省の調査によれば、平成23年3月卒業の大学の就職内定率(就職希望者数に対する就職者数)は、91.1%と発表されています。本学の就職内定率は、その平均値を7.9ポイント上回り、99.0%となりました。(図3)

また、本学の就職率(卒業生から大学院進学者を除いた者に対する率)は、83.1%(前年:81.9%)となり、前年より1.2ポイント増となりました。

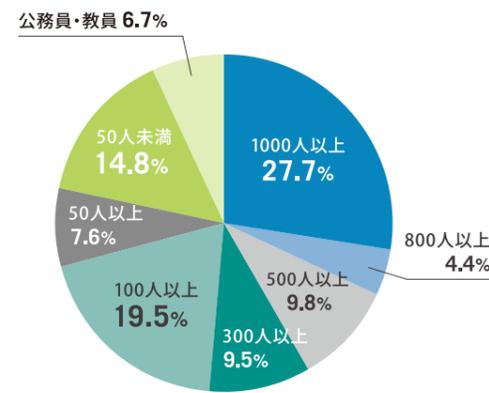
業種別に就職状況を見ると、第1位は製造業25.2%以下、卸売・小売業20.2%、サービス業18.5%、建設業10.2%、金融・保険業9.2%となつています。(図4)

また、規模別に見ると従業員500人以上の大企業へ41.9%の学生が就職しており、およそ2.4人に1人が大企業へ就職を決めたこととなります。(図5)

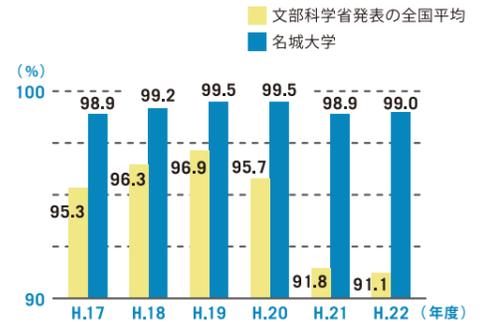
(図4) 業種別就職状況



(図5) 規模別就職状況



(図3) 就職内定率の推移





1万7千人を超えており、就職支援の大きな柱となっています。
 また、就職が内定した4年生および本学卒業生の力を活用した就職アドバイザー制度(就職相談制度)があります。就職活動中の学生や就職をこれから始めようとする学生にとって心強い制度となっています。
 また、キャリアセンターでは、企業の人事採用経験のある3人の相談員による模擬面接や履歴書添削を中心に学生相談を常時受け付けています。
 以上のように本学では、面談指導と各種行事を含め多彩な学生支援プログラムを実施し、就職活動のさらなる充実に向け支援を続けています。



本学キャリアセンターでは、1年生から内定を勝ち取るまでの4年間にわたり、進路・就職相談ができる体制をとっています。学生たちにとって、初めての就職活動には不安を感じるものです。さらに、雇用環境は非常に厳しい状況であり、就活生の悩みは非常に大きなものです。学生の悩み・就職意識も千差万別であり、個別指導・相談体制はますます重要なものとなっています。

就職支援体制

名城大学就職支援の特徴

1、2年次には、進路支援講座として「講演会」「自己発見のための職業適性テスト」「グループ面談」を実施することによって、学生が自発的に自分の進路を考える機会を提供し、自己実現

をサポートしています。また、低年次生がボランティアで就職支援行事を手伝う「就職サポーター」制度もあり、意識高揚に役立っています。
 3年次からは実践的な就職指導が始まります。「就職ガイダンス」からスタートし、「グループ面談」「個人面談」の面談支援を主軸にし、「就職試験対策講座」「履歴書・エントリーシートの書き方講座」「ビジネスマナー講座」「自己PR講座」「メイクアップ講座」「模擬面接」「学内企業研究セミナー」「アドバイザー懇談会」など多彩な行事を開催しています。特に、「学内企業研究セミナー」は約650社が参加する東海地区最大規模のもので、学生参加も延べ



平成23年度 進路支援、就職支援行事

進路支援プログラム(1・2年生対象)木曜日3限

行事名	開催月	内容
公務員ガイダンス	4月	「公務員になるには」～国家・地方・国税・裁判所・警察～
講演会I	5月	「学生時代にすべきこと」
グループワーク	5月	「なかなかきけない卒業後の話」～ライフプランニング授業～
グループ面談	6月	「目標を持つ」～充実した学生生活を送るために～
自己診断テスト	6月	「職務適性テスト」
自己診断テスト	7月	「職務適性テスト結果の見方」

就職指導行事(3年生対象)

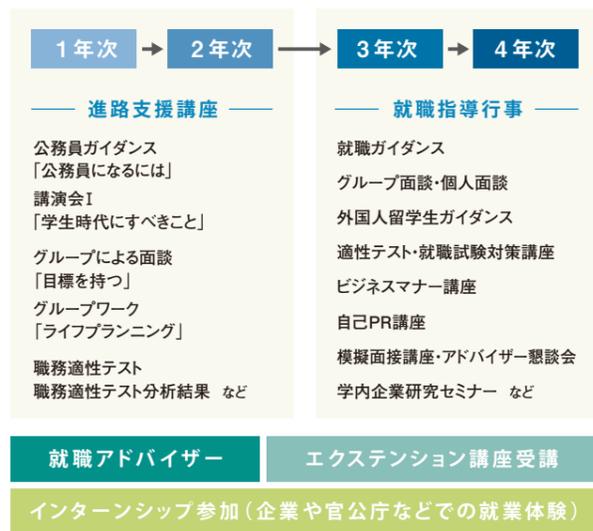
行事名	開催月	内容
第1回就職ガイダンス	6月	就職の心構え、最近の就職戦線、年間スケジュール、グループ面談の日程配布、就職試験対策講座申込
外国人留学生ガイダンス	6月	留学生の就職の流れ、就職のポイント
グループ面談	7月	担当制によるグループ面談
ドリームマップ講座	7月	自分の将来について考える講座
第2回就職ガイダンス	9月	就職活動の具体的な進め方、個人面談の日程配布・主要企業一覧表の配布
個人面談	10月	担当制による個人面談
ビジネスマナー講座	10月	就職に必要なマナーの習得
みだしなみ講座(女子)	10月	就職に必要な身だしなみ・メイクアップの習得
自己PR講座	10月	プレゼンテーションスキル等の習得
Uターンガイダンス	10月	Uターン就職の説明、新聞社、WEBの登録、先輩の就職体験談
第3回就職ガイダンス	11月	エントリーシート・履歴書の書き方・模擬面接講座の申し込み・内定者による体験報告
就職模擬面接講座	12月	模擬面接の集中対策
第4回就職ガイダンス	平成24年 1月	学内企業研究セミナーの説明等
就職試験対策講座	6月	適性テスト・履歴書の書き方講座
	7月	SPI・履歴書添削
	8月	一般常識
学内企業研究セミナー	平成23年12月 平成24年 2月	教室方式、ブース方式
就職アドバイザー相談会	平成24年 2月	内定者やOB・OGとの就職相談会

※予定表の内容は変更になることがあります。



進路指導担当制

就職指導担当制



理想の進路・就職の実現

平成22年度の表彰・入賞者(学外関係)

※所属、職名は発表時あるいは受賞時のものです。※本学関係者以外との共同受賞はその方の紹介を省略しています。

【学生等】



理工学研究科
情報工学専攻
修士課程
高橋友一研究室
岡谷 賢さん、四倉 茂さん、高橋 友一教授

【ロボカップ2010レスキューシミュレーションリーグ「準優勝」、計測自動制御学会システムインテグレーション部門「計測自動制御学会賞」(以上、チーム「Hinomiya」(岡谷さん、高橋教授))、NPO法人ロボカップ日本委員会「ロボカップ研究賞」(岡谷さん、四倉さん、高橋教授)】



理工学研究科
材料機能工学専攻
修士課程
上山智・竹内哲也・岩谷素顕研究室
野中 健太郎さん

【日本結晶成長学会ナノ構造・エピタキシャル成長分科会、第2回窒化物半導体結晶成長講演会「発表奨励賞」】



理工学研究科
情報工学専攻
修士課程
船戸 宏徳さん

【電子情報通信学会東海支部「平成21年度学生研究奨励賞」】



理工学研究科
交通科学専攻
修士課程
瀧佳弘研究室
犬飼 貴史さん

【日本機械学会若手優秀講演フェロー賞】



理工学研究科
交通科学専攻
修士課程
小川宏隆・菅章紀研究室
住野 誠さん

【Microwave Materials and their Applications 2010「Young scientist best presentation award」】



理工学研究科
情報工学専攻
修士課程
渡邊晃研究室
山岸 弘幸さん、久保 聡さん

【情報処理学会DICOM2010(マルチメディア、分散、協調とモバイル)「ヤングリサーチ賞」】



農学研究科
修士課程
栄養・食品学研究室
池田 龍一さん

【第15回日本フードファクター学会(JSoFF)学術集会「JSoFF2010 Young Investigator Award」(若手研究者賞)】



理工学研究科
建設システム工学専攻
修士課程
小高猛司研究室
平手 寿大さん

【地盤工学会第45回地盤工学研究発表会「優秀論文発表賞」】



附属高校総合学科
吉岡 賢太郎さん、磯部 珠希さん

【平成22年度税に関する高校生の作文「名古屋国税局長賞」(吉岡さん)、「名古屋中村税務署長賞」(磯部さん)】



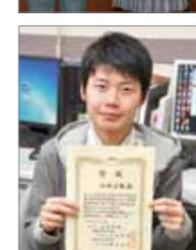
都市情報学研究科
修士課程
方 樹名さん

【第10回岐阜県内留学生日本語弁論大会「審査員特別賞」】



薬学研究科
修士課程
高橋 弘泰さん、打矢 恵一准教授、二改 俊章教授

【第64回国立病院総合医学会「ポスター賞」】



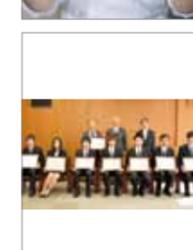
理工学研究科
建設システム工学専攻
修士課程
小高猛司研究室
三好 直輔さん

【土木学会第65回年次学術講演会「優秀講演者賞」】



理工学研究科
機械工学専攻
博士後期課程
ヘトロス・アブラハ研究室
宮本 潤示さん

【2010年度(第70回)日本熱処理技術協会講演大会「研究発表奨励賞最優秀賞」】



名城大学ボランティア協議会
富田 大輝さん、岡田 仁志さん、片岡 里奈さん、高木 大智さん、神野 雄也さん、山岸 浩也さん、日比野 信也さん、堤 毅大さん

【愛知県天白警察署長「感謝状」(防犯ボランティア活動)】



理工学研究科
情報工学専攻
修士課程
中野倫明研究室
大石 裕介さん

【第9回ITSシンポジウム2010「ベストポスター賞」】



理工学研究科
情報工学専攻
修士課程
中野倫明研究室
高橋 佳男さん

【電気関係学会東海支部連合大会「連合大会奨励賞」】



理工学研究科
電気電子工学専攻
博士前期課程
清水教之・村本裕二研究室
奥村 賢直さん

【電気関係学会東海支部連合大会「電気学会優秀論文発表賞」】



薬学部
微生物学研究室
研究員
滝 久司さん

【第64回国立病院総合医学会「ベストポスター賞」】



経営学部
澤田 慎治ゼミ生チーム

【経済産業省、社会人基礎力育成プログラム2011「中部地区奨励賞」】



理工学研究科
社会環境デザイン工学専攻
博士課程
村田賢・松井徹哉研究室
永谷 隆志さん

【2010年度日本建築学会東海賞(論文賞)】



理工学研究科
電気電子工学専攻
博士前期課程
清水教之・村本裕二研究室
岡 洋佑さん

【10th IEEE International Conference on Solid Dielectrics「2010 IEEE DEIS Japan Chapter Student Best Paper Presentation Award in International Conference (2010 IEEE DEIS 日本支部 学生国際会議優秀論文発表賞)】



総合学術研究科
博士課程
高倍昭洋研究室
本田 是人さん

【2010年度水産海洋学会「論文賞」】



理工学部情報工学科
柳田康幸研究室
田中丸 龍哉さん

【日本バーチャリアリティ学会第15回大会「学術奨励賞」】



理工学部
建設システム工学科
小高猛司研究室
森 涼香さん

【土木学会平成22年度中部支部研究発表会「優秀研究発表賞」】



理工学研究科
電気電子・情報・材料工学専攻
博士後期課程
高橋友一研究室
岡谷 賢さん

【情報処理学会東海支部平成22年度学生論文奨励賞】



法務研究科名城大学チーム
伊藤 聡史さん、猪子 大介さん、大久保 英里さん、柴田 美佐さん、高田 光宏さん、山口 季男さん

【愛知県弁護士会法科大学院特別委員会主催「法科大学院対抗民事模擬裁判」殊勲賞】



【教員等】



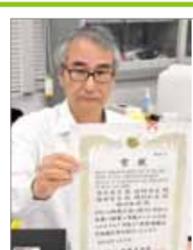
学長室
岡山 朋子助教

【廃棄物資源循環学会賞「奨励賞」】



理工学部
宇佐美 勉教授

【平成21年度土木学会「田中賞」(研究業績部門)】



理工学部
日比 義彦准教授

【平成21年度地盤工学会「論文賞」】



稲田 正人名誉教授
(元理工学部教授)

【電気設備学会「第10回会長賞」】



石原 荘一名誉教授
(元理工学部教授)

【自動車技術会「2009年度技術部門賞」】



農学部
日野 輝明教授

【日本学術振興会表彰(平成21年度特別研究員等審査会専門委員)】



学長室
佐藤 文寛助教

【日本人類学会総会「論文奨励賞」】



勝瀬 幸貞名誉教授
(元法学部教授)

【文部科学大臣表彰(平成22年度生涯スポーツ功労者)】



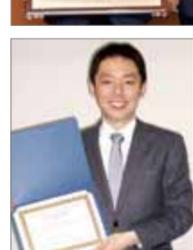
都市情報学部
稲葉 千晴教授

【ポーランド文化省「ポーランド文化功労章」】



薬学部
坂井 健男助教

【第41回中部化学関係学会支部連合秋季大会特別討論会「分子変換技術の多様性と進化」VIP賞】



理工学部
吉川 雅弥准教授

【CAINE2010「Best Paper Award」】



附属高等学校
吉川 雅弥准教授

【JICA国際協力中学生・高校生エッセイコンテスト「学校賞」】

寄付金額	法人名・個人名
30,000 円	(株)名大社 代表取締役 小野 良樹
	(株)フジケン 代表取締役 牧 甫
	(株)山下設計中部支社 執行役員支社長 新井 一治
20,000 円	(社)愛知県観光協会* 専務理事 井上 雅
	(株)朝日工業社名古屋支店 取締役支店長 山本 忠雄
	(株)大林組名古屋支店 専務取締役支店長 中谷 章
中日新聞社*	
ヒロタ(株) 代表取締役 廣田 孝昭	
ブラザー印刷(株) 代表取締役 岡田 吉生	
(株)山田商店* 代表取締役 山田 秀樹	
10,000 円	(株)有光組 代表取締役 有光 和雄
	(有)オース 代表取締役 水谷 勝彦
	坂井建設(株) 代表取締役 坂井 保弘
(株)サポーターニング中京 代表取締役 佐野 悟	
(有)田口建築 代表取締役 田口 雅幸	
中日新聞天白支部 藤原 正	
ナカバヤシ(株)名古屋支店 支店長 橋本 英彦	
名古屋市商店街振興組合連合会天白支部 支部長 箕浦 憲二	
名城商事(株) 代表取締役 水野 稔也	
読売新聞中部支社 中部支社長 三浦 光男	

寄付金額	法人名・個人名
50,000 円	中央可鍛工業(株) 取締役社長 武山 尚生
	(株)ディスコ名古屋支社 支社長 坂戸 隆文
	東海設備(株) 代表取締役 堀田 一則
東松電器販売(株) 代表取締役 東松 晃弘	
(株)トヨタ名古屋教育センター中部日本自動車学校 伊藤 猛	
(有)名古屋運搬機 代表取締役 玉城 清一	
尾西信用金庫 理事長 大野 誠一	
(株)敏弘社 代表取締役社長 後藤 昌久	
(株)貿易広告社 代表取締役社長 池田 勇	
47,000 円	東名紙業(株) 所長 三田村 聡
40,000 円	(株)日本旅行名古屋教育旅行支店* 支店長 下村 和人
30,000 円	(株)アイワット* 代表取締役 岩田 玄知
朝日新聞名古屋本社 広告局長 高津 利明	
(株)荒川印刷 代表取締役 荒川 幹夫	
(有)シーガルジャパン 取締役 名古屋信孝	
(株)土屋組名古屋支社 取締役支社長 柴馬 靖人	
デュプロ販売(株) 代表取締役 河口 曠成	
凸版印刷(株)中部事業部 取締役中部事業部長 名取 幸雄	
(株)都民防災設備センター 代表取締役 山口 勝治	

名城大学教育振興資金

心のこもった貴重なご寄付、ありがとうございます。

「名城大学教育振興資金」に、多くの皆さまから暖かいご協力をいただき、心より感謝申し上げます。
寄付金は学生の奨学金、キャンパスの施設整備に有効に活用させていただきました。
今後とも、名城大学発展のため、ご支援いただきますようよろしくお願いいたします。

学校法人 名城大学 理事長 大橋 正昭
名城大学 学 長 中根 敏晴

寄付者ご芳名

「名城大学教育振興資金」募金事業の趣旨にご賛同賜り、関係各方面から心温まるご支援をいただきました。
ここに、当募金事業開始時の平成17年1月1日から平成23年3月31日までの
寄付者ご芳名を掲載させていただき、併せて暖かいご芳志に厚くお礼申し上げます。

寄付金額	個人名
10,000 円	浅田 恭之
	浅海 寛二
	新井 康男
	荒深 康彦
	池田 康樹
	伊藤 良雄
	岩崎 征一
	岩田 大介
	岩室 隆
	内山 隆二
30,000 円	宇野 しのぶ
	大矢 義郎
	梶田 正勝
	神谷 和孝
	神谷 和人
	神谷 政義
	亀井 浩行
	河村 幸俊
	北谷 好市郎
	鬼頭 一隆
25,000 円	金原 吉隆
	久場 弘
	杉野 善章
	鷺見 高典
	瀬島 善一
	高良 功
	竹内 豊幸
	谷口 清司
	谷口 時弘
	坪井 善樹
20,000 円	中島 薫
	中島 健
	中島 幹文
	中西 正和
	成瀬 哲資
	林 弘
	坂野 公平

寄付金額	個人名	
50,000 円	白井 一吉*	
	鈴木 彰二	
	外山 幸男	
	牧 甫	
	山本 健司	
	匿名1名	
	40,000 円	伊庭 克英*
		岡田 治久*
		金井 賢治*
	30,000 円	山口 勝治*
青山 貞治*		
熱田 久		
岩松 秀之		
上野 誠		
大野 豊		
勝野 隆		
加藤 春夫		
塩野 友二郎*		
前田 裕美		
21,200 円	溝口 敏博*	
	山田 雄久	
	山田 能久*	
	廣瀬 弘平*	
	本岡 國重*	
	青木 一男	
	尾崎 稔*	
	粕谷 國夫*	
	倉知 悦子	
	作間 勤治	
10,000 円	鈴木 啓治	
	鈴木 清司	
	高野 龍彦	
	牧 隆弘	
	松澤 淳	
	水野 信彦	
	宮地 賢二	
	山田 健二*	

寄付金額	個人名	
卒業生		
8,016,592 円	吉村 健	
1,200,000 円	松田 昌久*	
1,010,000 円	一柳 鐸*	
600,000 円	匿名1名*	
400,000 円	坂ノ上 瀬戸夫*	
300,000 円	岩越 裕之	
260,000 円	近藤 真	
	加藤 哲也*	
220,000 円	三上 孝之	
200,000 円	井伊 一明*	
160,000 円	伊藤 恒生*	
	周 進升*	
	滝藤 一秋*	
	田中 信治	
	大塔 正敏*	
	132,000 円	花谷 和重*
	120,000 円	高橋 克巳
	110,000 円	杉本 敏郎*
	100,000 円	平岡 久尚*
		堀川 浩良*
大嶽 松美		
大森 稔		
鬼頭 勇		
牧村 正光*		
90,000 円		山下 春雄*
80,000 円		浅井 和吉*
70,000 円		片境 貢
		中島 久勝*
	井狩 雅弘*	
	東山 通泰*	
	伊室 純義*	
	河竹 朗*	
	田代 稔	
	青木 利和	
	柿原 清章	
	木村 英治	

金額順・50音順で、敬称は勝手ながら省略させていただきました。
※は2回以上ご寄付をいただいた方で、平成17年1月からの累積額が掲載しております。

寄付金額	法人名・個人名
150,000 円	(株)銭高組名古屋支店* 執行役員支店長 岡本 一彦
140,000 円	日本マクドナルドホールディングス(株) 代表取締役 原田 永幸
130,000 円	(株)ちくさ正文館* 代表取締役 谷口 正和
	橋本電機工業(株)* 代表取締役社長 橋本 恭典
(株)榮美通信 代表取締役 川村 知哉	(株)大西熱学中部支店 代表取締役副社長 支店長 大西 弘高
	教育産業(株) 代表取締役 磯村 良司
(株)サガミチェーン 代表取締役 眞鍋 洋治	
山陰酸素工業(株) 代表取締役社長 並河 勉	
(株)産通名古屋支社 取締役支社長 吉田 春夫	
(株)進研アド 代表取締役 金代健次郎	
(株)全日警名古屋支社 取締役支社長 宇野 文孝	
大成建設(株)名古屋支店 常務役員支店長 鎌田 勝	
NPO法人たすけあい名古屋 代表理事 渡部 勝	
(株)中京銀行* 取締役頭取 末安 堅二	
(株)テクノ西村 代表取締役 西村己恵子	
(株)ナガラ 代表取締役 早瀬 実	
名古屋セントラルクリニック 理事長 黒柳 幸子	
名古屋ビルサービス(株) 代表取締役 河合 隆二	
司法書士・行政書士藤井事務所 司法書士 藤井 伸一	
富士ゼロックス(株)中部支社 ドキュメントサービス営業部長 山田利雄	
(株)富士通中部システムズ* 代表取締役社長 松下 公一	
松本テクニコ(株) 代表取締役 松本 淳子	
(株)ミニミニ* 代表取締役 森 友次	
80,000 円	(株)三菱東京UFJ銀行平針支社* 支社長 天城 宏紀
	(株)セイコー 代表取締役 勝野 隆
70,000 円	(株)名古屋銀行塩釜口支店* 支店長 浅野 靖
	菱電エレベータ施設(株)名古屋支店 取締役支店長 小城 良文
60,000 円	(有)アイショウ* 代表取締役 平松 徹也
	(株)ウエストゲイト 代表取締役 岡田 正則
50,000 円	(社)オリエンタル労働衛生協会 理事長 岩塚 徹
	カミヤ産業(株) 代表取締役 神谷 昭司
(株)光洋社 代表取締役 渡邊 義敬	
(株)コトジヨー 代表取締役 大岩 克重	
(株)三弘 代表取締役 伊藤 弘一郎	
(株)ジェイネット 代表取締役 土屋 泰弘	

寄付金額	法人名・個人名
企業・団体	
105,411,372 円	創光科学(株)* 代表取締役 野上 宏
58,000,000 円	(有)名城大学サービス* 代表取締役 鈴木 昭二
41,000,000 円	名城大学校友会* 会長 林 譽史朗
9,000,000 円	豊田合成(株)* 取締役社長 若山 甫
6,120,000 円	名城大学生生活協同組合* 理事長 國村 道雄
6,000,000 円	大江興業(株) 代表取締役 小林 弘明
3,300,000 円	(株)ジャパンビバレッジコミサリー* 代表取締役 稲穂 隆利
2,880,000 円	(株)ジャパンビバレッジセントラル* 代表取締役 猪田 稔
	エームサービス(株)* 代表取締役社長 石田 久人
2,270,000 円	(株)名城食堂* 代表取締役 墨 義政
1,766,000 円	(株)葵フーズディナーズ* 代表取締役 奥田 葵
1,500,000 円	名城大学理工学部80周年 記念事業実行委員会 実行委員長 下山 宏
1,200,000 円	名城大学機械会 会長 梶田 正勝
	(株)名城プロセスマネジメント研究所* 代表取締役 河田 信
1,000,000 円	東京海上日動火災保険(株) 愛知北支店長 山瀬 利明
944,000 円	(株)アイコーメディカル* 代表取締役 加藤 弥生
790,000 円	アバマンショップ塩釜口店* 代表取締役 中根 正江
550,000 円	富士通(株)東海営業本部* 本部長 花田 吉彦
487,000 円	三機工業(株)中部支社* 常務執行役員支社長 安藤 憲正
	スガキシステムズ(株) 代表取締役 菅木 伸一
400,000 円	名城大学校友会富山県支部 支部長 片境 貢
300,000 円	(株)新東通信* 代表取締役会長 谷 喜久郎
(株)竹中工務店名古屋支店 取締役支店長 佐藤 明	(株)トヨタエンタプライズ* 代表取締役 根石 廣正
	テンブスタッフ・ピープル(株)* 代表取締役社長 日比野 三吉彦
(株)三越名古屋栄店 取締役名古屋栄店長 松村 茂	名城大学校友会関東支部 支部長 山口 勝治
	名城大学校友会岐阜県支部* 支部長 溝口 敏博
250,000 円	名城大学体育OB連合会 実行委員長 柴田 守
	(株)セントラルサービス 代表取締役 東 孝一
210,000 円	(株)メイトー* 代表取締役 大岩 政敏
200,000 円	(株)城下エンジニアリング 代表取締役会長 屋嘉比 政一
	トヨタカローラ名古屋(株) 代表取締役 後藤 善和
読売新聞東京本社 教育支援部長 大角 直也	常川印刷(株)* 代表取締役 常川 知泰

寄付金額	個人名
10,000 円	日向 信夫
	福井 博泰
	増田 ひろみ
	松澤 忠人
	松葉 和久
	松原 武徳
	水野 容子
	村田 泰美
	森田 健治
	山口 清
	山田 啓一
	吉田 文雄
	渡辺 章三
5,000 円	岡戸 浩子
	高屋 敬三
役員(退職者含む)	
12,000,000 円	大橋 正昭※
7,500,000 円	下山 宏※
4,500,000 円	大澤 正隆※
3,500,000 円	岩崎 正視※
2,500,000 円	神谷 忠雄※
2,000,000 円	兼松 顯※
1,800,000 円	池原 喜忠※
1,500,000 円	板橋 一雄※
1,210,000 円	松田 昌久※
700,000 円	池田 輝政※
	新居 直祐※
630,000 円	杉山 秀勝※
500,000 円	白井 文吾
430,000 円	前田 直道※
330,000 円	蜂矢 直樹※
300,000 円	野田 泰弘
250,000 円	鈴木 良雄※
100,000 円	青山 英次
	長谷川 信義

寄付金額	個人名
20,000 円	小瀬 輝夫※
	篠原 力雄
	杉浦 伸※
	谷野 秀雄
	碓野 敏博
	林 和彦
	飛田 武幸
	藤田 衆※
	松本 幸正
	武藤 厚
	匿名1名※
15,000 円	古幡 昭英※
10,000 円	青山 和順
	飯島 美恵子
	岩田 修一
	薄井 孝明
	大武 貞光
	大村 智子
	岡本 真一
	小川 宏隆
	加藤 明夫
	加藤 浩一
	加藤 千賀子
	亀山 紘美
	楠 美菜子
	久野 正
	小島 起則
	澄川 英之
	高橋 政稔
	高橋 祐次
	田口 勝平
	竹島 和夫
	楯 一也
	塚越 規弘
	土橋 明雄
	手嶋 正章
	中村 育雄

寄付金額	個人名
50,000 円	竹内 市郎
	寺田 幸正
	内藤 孝行
	橋本 昌紀※
	春名 光昌
	半谷 眞七子
	牧田 一幸※
	三輪 一智
	森重 利文※
	山崎 初夫
	山本 忠弘
45,000 円	水野 仁子※
40,000 円	石黒 健二※
	中村 博紀※
	日室 謹一※
	平井 英司※
	松井 寛※
35,000 円	高木 志郎※
30,000 円	安藤 義則※
	今井 誠
	岡林 繁
	岡本 清郷※
	小川 明※
	尾関 富信※
	加藤 堯※
	杉岡 敬二
	鈴木 正之※
	田中 寅夫
	野田 幸裕※
	村山 重俊
	矢野 幾也※
	匿名1名
20,000 円	石原 廣男※
	磯前 秀二※
	伊藤 俊一
	岩下 健太郎※
	宇佐美 勉

寄付金額	個人名
120,000 円	圃 久江※
	竹内 烈※
110,000 円	上田 宣昭※
	垣谷 俊昭※
100,000 円	阿知葉 征彦
	有田 辰男
	有田 豊
	稲垣 公治
	海野 孝憲
	奥田 和代
	奥出 宗重
	金子 林爾
	金田 典雄
	河合 勉
	菊川 浩治
	小林 康助
	佐藤 高明
	鈴木 德行
	津川 定之
	鶴沢 真一
	寺澤 邦彦
	富田 豊照
	中村 秀幸※
	那須 初治※
	橋本 実
	藤田 秀臣※
	藤田 百合子※
	船隈 透
	松岡 美智子
	水谷 明
	吉久 光一
90,000 円	越立 政彦※
	山ノ井 基臣※
80,000 円	新井 良一※
	長澤 崇雄※
	柳澤 武
70,000 円	青山 高美※
	河田 信※
	武藤 正美※
68,000 円	永松 正※
65,000 円	生田 好三※
63,000 円	長谷川 清※
60,000 円	伊藤 康児
	大脇 肇※
	岡崎 次男※
	清水 泰弘※
	鶴田 弘樹※
	長沼 嗣雄※
	古家 守※
	松田 正吾※
52,000 円	上村 克義※
51,000 円	山口 正好※
50,000 円	青野 求
	石神 栄蔵
	江尻 典雄※
	木下 栄蔵
	小崎 道廣
	佐藤 修※
	高橋 陽子

寄付金額	個人名
10,000 円	紅谷 一利
	丸岡 透
	山内 和博
	山本 和司
	和佐田 政行
5,000 円	亀山 了
	佐藤 満里子
篤志家	
2,000,000 円	日比野 三吉彦※
562,000 円	松井 る里恵※
107,139 円	孫 凱
100,000 円	伊藤 孝司
	近藤 徳夫
80,000 円	科野 元蔵※
70,000 円	匿名1名
50,000 円	鈴木 教夫
20,000 円	土屋 紀生※
	匿名1名
10,000 円	伊東 國宏
	匿名1名
5,000 円	鶴飼 純子
教職員(退職者含む)	
9,000,000 円	赤崎 勇※
2,200,000 円	立岡 亘※
1,800,000 円	松尾 秀雄
1,120,000 円	中井 剛※
630,000 円	飯島 澄男※
600,000 円	原 彰※
560,000 円	戸田 千登世※
520,000 円	板倉 文忠※
500,000 円	長尾 好泰
	鍋島 俊隆※
430,000 円	富田 すみ子※
340,000 円	佐藤 俊之※
300,000 円	香川 道子※
	小嶋 伸夫※
	坂 齋
	杉岡 仁※
	長尾 正志
	西田 幹夫
	匿名 1名
290,000 円	大田 良二※
250,000 円	大塚 昭信
	久保 全弘※
	杉下 潤二※
	田中 雅幸※
230,000 円	山本 新※
200,000 円	岡田 邦輔
	藤田 裕士※
	松岡 是治※
	匿名1名
180,000 円	犬飼 斉※
	亀山 勉※
170,000 円	余語 弘※
160,000 円	佐藤 和彦※
	榎野 均※
140,000 円	難波 栄子※
	難波 輝吉※
130,000 円	上村 鉄雄※

寄付金額	個人名
卒業生	
10,000 円	平田 聡
	水野 武
	水上 豊
	溝淵 真平
	村島 輝彦
	森 誠
	矢野 博志
	横田 哲治
	吉田 直人
	渡辺 裕之
	林 冠汝
	匿名1名
8,000 円	雪竹 勝
5,000 円	可児 武
	黒川 幸雄
	新谷 孝
	鈴木 一成
	玉城 武輝
	柘植 信彦
	光野 雄二
	匿名1名
3,300 円	谷村 曜一
3,000 円	坪井 治水
在学生父母	
430,000 円	匿名1名※
300,000 円	橋本 毅
200,000 円	匿名1名
100,000 円	大野 省造
	匿名1名
	匿名1名
80,000 円	萩原 裕司※
60,000 円	岡田 義久※
	丹羽 豊一※
	山本 秋人※
50,000 円	石野 陽子
	鈴木 秀次※
30,000 円	阿部 和裕
	木戸 利秋
	小林 和司
	田口 敏康
	林 康司
	平子 ちよみ
	匿名1名
	匿名1名
20,000 円	上村 廣実
	寺本 弘※
	安田 青
10,000 円	安藤 慎次
	伊藤 靖子
	表 力
	河合 省二
	杉本 直巳
	鈴木 修平
	鈴木 憲行
	高山 男成
	永田 範明
	花井 和彦
	廣瀬 光利

名城大学教育振興資金ご協力のお願い

■税制上の優遇措置（個人の場合）

寄付金が2千円を越える場合、その越えた金額が当該年の課税所得から控除され、所得税が減額されます。
 当該年中に支出した寄付金の総額－2千円＝寄付金控除額
 ただし、当該年分の総所得金額等の100分の40が限度です。

■お申し込みおよびお問い合わせ先

募金に関するお申し込みおよびお問い合わせは、同封の資料請求ハガキをご利用くださいますようお願いいたします。
 募金要項・寄付申込書等の関係書類を至急お送りいたします。

名城大学教育振興資金募金事業に係る寄付のお申し込みおよびお問い合わせ先

経営本部 総務部(募金) 052-832-1151 内線 2178・2179

I 基本テーマに対する結果

1 学を促す教職協働のPDCAの構築

- 各学部・研究科において、これまでの検証を踏まえながら、教職協働による教育プログラムの開発、新入生セミナーなどの初年次教育の充実、大学院を含めたFDシステムの強化に向けた取り組みを進めた。

2 新学部・研究科の設置

- 平成23年4月に新たに11番目の研究科として、人間学部を基礎とする大学院人間学研究科(入学定員8名)を設置。(平成22年12月24日付認可)
- 「新学部構想委員会」を設置し、新学部を設置する方向で議論を進めてきたが、結論に至らなかったため、改めて検討することとなった。

3 総合学園化構想を踏まえた附属中学校の設置

- 附属中学校を平成25年4月に開設することを目指して議論を進めてきたが、改めて外部環境、内部資源等を踏まえて議論を進めた結果、一旦、附属中学校の設置計画を中断することとした。

4 開学100年を目指した周年事業プロジェクトの推進

- 開学100周年に向け、本学のブランド調査を実施し、本学の強みと弱みを可視化した。今後、この結果を踏まえ、ブランドを構築していくと共に、開学100周年に繋げていくこととしている。

II 主な事業の結果

1 「人材の確保と育成」分野

大学院教育を含むFD (Faculty Development) 活動を支援する。

- 「学生が学習意欲を高める授業とは—学生の主体的な学びについて考える—」をテーマにFD講演会(平成22年12月2日)を開催し、273名が参加。
- 「大人数講義の工夫」「学生の授業マナー」「学習上困難を抱える学生への対応」の3つをテーマに第3回T&L CAFE(Teaching & Learning CAFE)(平成22年10月7日)を開催し、13名が参加。
- METS(英語教員研修)を9回実施し、延べ94名参加。
- 後期に学生による授業満足度アンケートを実施し、結果を冊子として集約した。



教職協働に基づく事務職員の人材高度化をめざすSD (Staff Development) を支援する。

- 平成22年度大学院派遣研修として、大学・学校づくり研究科に2名が入学。
- FD・SDコンソーシアム名古屋による海外派遣研修3名、南山学園事務職員等研修2名、教務学生事務担当者実務研修1名、四国コンソーシアム(SPOT)3名を派遣。
- 管理職者研修、一般職研修、若手職員研修を体系的に実施し、延べ801名が参加。

優れた学生・生徒及び教職員の確保に向けた支援策を講ずる。

- 平成23年度大学入試において、28,989名の志願者を確保。
- 平成22年度から、天白キャンパス及び八事キャンパスにおいて、オープンキャンパスを土曜日、日曜日の2日間の開催としたところ、中部地区No.1の11,348名の高校生等が参加。
- 平成23年度の人間学研究科の設置に向けて、専任教員1名を採用。
- 新たな事務職員の雇用形態として、業務職を設け、平成23年度に向けて、25名を採用。
- 附属高等学校における平成23年度入試において、8年連続で愛知県下No.1の志願者7,501名を確保。

附属高等学校の活性化につながる教員専任率向上に取り組む。

- 平成23年度に向けて、教諭3名、養護教諭1名、特任教諭1名、計5名の専任教員を採用。

附属高等学校における教員研修の充実を支援する。

- 教員全員を対象とした教員研修会を3回実施し、延べ178名が参加。
- 教育開発部を中心として、希望者による教員研修会を2回実施し、延べ60名が参加。

2 「教育の充実」分野

学士課程教育の質向上に向けて、特色ある教育拠点づくりを支援する。

- 「大学生の就業力育成支援事業」に1件申請し、採択。(「取組名:現場触発型教育・学習による就業力の育成—講義・ゼミナール・企業実態調査の三位一体型の学習スパイラル—」/経営学部)
- JABEEへの継続的な取り組み。(理工学部情報工学科が新規審査、建設システム工学科が継続審査を受審)
- 理数系教員(コア・サイエンス・ティーチャー:CST)養成拠点構築事業に「教員養成大学と理工系学部、教育センターの連携によるCST活動プログラムの構築と実践」の企画が採択。
- 「多読ルーム」において、蔵書数24,791冊を整備し、利用者数38,708名、貸出冊数84,284冊の実績を上げ、学生の英語運用能力向上に努めた。
- 平成23年度入学予定者(推薦のみ)を対象に、基礎学力と学習意欲の向上を狙いとして、学習支援(MEC)プログラムを実施し、554名が受講。
- 平成23年度に向けて、理工学部数学科及び材料機能工学科の教育課程の改正、並びに交通科学科の交通機械工学科への名称変更を進めた。

アドミッションポリシーとディプロマポリシーとの一貫性を担保した体系的なカリキュラム運営を支援する。

- 全学部・研究科のディプロマポリシー、カリキュラムポリシー及びアドミッションポリシーを明確にし、教育情報の公開として、平成23年度からのホームページへの掲載に向けて準備を進めた。

附属高等学校の教育活性化と卓越性への取組を支援する。

- 普通科、総合学科ともに「NIE」新聞学習に取り組み、団体、個人ともに入賞。
- 普通科において、名城大学 竹内英人准教授による数学特別講座「数楽マスター」を年間26回実施。
- 国際クラスにおいて、英語教育を軸にし、名城大学のネイティブ・スピーカーによるサマーキャンプ、南山大学との連携、課題研究等のプログラムを実施。
- 特色ある教育として、外部講師をSSH114名、普通科21名、総合学科27名を招聘し、講演を実施。
- 普通科2年次特進クラスにおいて、現役大学生による「卒業生を交えたシンポジウム」を実施。
- 総合学科1年次の「産業社会と人間」の授業で、年間通したキャリア教育プログラムを実施。
- 普通科国際クラスと人間学部との高大一貫教育について、第5期生(25人)が人間学部に入學。
- 大学入試センター試験への対応、新高等学校学習指導要領への段階的対応等を目的として、平成23年度からの教育課程の改正を進めた。

3 「研究の充実」分野

世界水準の研究発信に向けて、特色ある研究拠点づくりを支援する。

- 経済産業省の補助事業である産業技術研究開発施設整備費補助金に採択され、平成23年4月の「LED共同研究センター」開設に向けて準備を進めた。
- 平成23年度分の「戦略的研究基盤形成支援事業」に、「グリーン・エレクトロニック・デバイス基盤の構築(理工学研究科)」の1件を申請。

大学院における国際的通用性の高い教育研究プログラムを支援する。

- 「大学院教育改善プロジェクト」として、新規に3プロジェクト(経営学研究科1件、薬学研究科1件、都市情報学研究科1件)に、5,096千円を支援。
- 平成23年度に向けて、経営学研究科修士課程及び農学研究科博士後期課程の教育課程の改正を進めた。

外国を含めた他大学院、研究所等との連携研究を支援する。

- 「平成22年度頭脳循環を活性化する若手研究者等海外派遣プログラム」に、「窒化物半導体国際共同研究(理工学研究科)」を申請し、採択。(レンセラー工科大学、リンチョピン大学)
- 「平成22年度二国間交流事業」に3件申請し、2件採択。(インド国立イネ総合研究所、カンヴォン大学)

外部研究資金の獲得を奨励し、必要な支援策を講ずる。

- 科学研究費補助金:申請件数164件、採択件数85件、採択金額171,390千円。
- 厚生労働省科学研究費補助金:申請件数6件、採択件数3件、採択金額42,905千円。
- 受託性大型プロジェクト:32件・175百万円、受託研究:42件・54百万円、奨学寄附金:75件・59百万円。

SSH、高大一貫教育を始めとする附属高等学校の特色ある教育プログラムの開発・研究を支援する。

- 「第5回スーパーサイエンスハイスクール東海地区フェスタ2010」(平成22年7月17日)を開催し、SSH指定校12校が集い、400名が参加。
- SSHに係わり、課題研究生徒による中間発表会、最終発表会、全校生徒研究発表会を実施。
- 国際クラス、SSHクラスを対象とした英語多読プログラムを実施。
- 平成23年度以降のSSH事業に継続申請した。

4 「学生・生徒支援体制の充実」分野

キャリア自己開発の観点から、進路・就職力の向上策を支援する。

- 就職情報交換会を開催。(280社参加)
- 学内企業セミナーを開催。(634社参加)
- インターンシップに402名の学生が参加。
- 犬山サミットにおいて、「大学及び高校におけるキャリア教育とは」をテーマに議論し、キャリア教育と職業教育の違いや、その重要性を確認した。(平成22年10月29日~30日)



新入生・在学生への経済不況に対応した奨学金制度の整備充実を支援する。

- 新入生及び在学生に対する緊急経済支援として、114名に総額44,745千円を支給。
- 東日本大震災に伴う、在学生への授業料等の経済的支援、受験生・入学手続者に対する入学金、授業料等に対応。

学生・生徒の実態調査を行い、満足度の向上を目指した取組を支援する。

- 全学生を対象に実施した「学生実態調査アンケート」について、報告書として取りまとめ、全学で共有。

課外活動の強化クラブへの支援を強化し、育成環境の充実策を講ずる。

- 課外活動全体の活性化を目的として、現行の特別強化クラブ及び強化クラブに加えて、新たに平成23年度から準強化クラブの新設に向けて、体制を整備。
- 特別強化スポーツクラブ(女子駅伝部、硬式野球部)及び強化スポーツクラブ(柔道部、ハンドボール部、アメリカンフットボール部、ラグビー部、バレーボール部)への支援の実施。
- 「第28回全日本大学女子駅伝対校選手権大会」において、女子駅伝部が第3位。

- 12月3日及び3月28日に、天白キャンパス(115名参加)、12月27日及び3月29日に、八事キャンパス(23名参加)、4月9日に、可児キャンパス(220名参加)、11月1日及び11月11日に中村キャンパス(40名参加)において避難訓練を実施し、計398名が参加。
- 附属高等学校において、学校安全緊急情報化広域ネットワーク活用訓練の見直しをするとともに、訓練を実施。

**人材のプロフェッショナル化を促す
人事考課制度の導入、給与体系の見直しに取り組む。**

- 「賃金の在り方専門委員会」において制度設計した新俸給体系に基づき、昨年度に引き続き検討を進めた。

ISO14001の推進を継続して取り組む。

- 第9回ISO14001フォーラム(平成22年12月4日)を開催し、約450名が参加。
- 平成22年12月22日に、学生の企画により、天白キャンパスに550個のキャンドルを点灯し、省エネや地球温暖化の防止の取り組みを広めた。



9 経営・教学の動き

1. 経営

- ①理事候補者及び評議員候補者を実際に選考する過程において浮き彫りとなった課題を基に、今後の選考のあり方について、「理事候補者及び評議員候補者選考のあり方検討委員会」において検討し、理事長宛に答申。
- ②学校法人名城大学の基本戦略(MS-15)の戦略プランに基づき、各部署の強みを「MS-15強みづくりカード」によって可視化。
- ③「名城戦略マネジメントカレンダー」及び「2009年度MS-15活動報告書」を作成し、1年間のマネジメントサイクルを明確化。

2. 教学

- ①新司法試験の最終試験に10名が合格。(本学法務研究科出身者)
- ②平成23年度教員採用試験に93名合格。(現役22名、卒業生71名)
- ③アジア研究所の研究助成プロジェクトとして、企画型プロジェクト3件、公募型プロジェクト5件を採択。(総額11,000千円)
- ④7つの学内助成事業を対象に公募を実施し、選定した結果、50課題で総額56,960千円を助成。
- ⑤出資者である赤崎勇教授の意向により、大学院博士後期課程の研究活動を奨励することを目的とした「赤崎奨学金」を新設。
- ⑥天白6号館の学生食堂に、日本サブウェイ(株)を選定。
- ⑦教員免許状更新講習を平成22年8月23日から27日まで、9講座を開講し、延べ343名が受講。
- ⑧「名城大学神戸シンポジウム」(平成22年12月11日)を開催し、110名が参加。
- ⑨COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)のパートナーシップ事業として「エコキャンパスプログラム」を実施。
- ⑩高校等への出前講義の実施。(115件)
- ⑪附属高等学校における学校評議員会において、特進クラスの新しい試み、部活動の状況、教員研修の実施状況、新体育館について、生徒の進路状況等の報告及び意見交換を実施。

- 吹奏楽部が、名古屋市内の中学校、高校の音楽コンテストを実施。
- 自然科学部が、中村児童館で小学生対象の「科学あそび」を実施。

8 「経営改革」分野

総合学園化構想を踏まえた取組を推進する。

- 人間学部を基礎とする人間学研究科修士課程の平成23年4月開設に向けて、文部科学省に設置認可申請をし、平成22年12月24日付で認可。
- 研究活動の学内外からの可視化を目的として、平成23年度から、総合研究所の下に研究センター等の設置に向けて、体制を整備。

施設設備の充実に向けて、再開発計画の実行と評価に取り組む。

- 経済産業省の補助事業である産業技術研究開発施設整備費補助金が採択されたことに伴い、平成23年3月に世界レベルの研究施設として、科学技術創生館が竣工。
- 天白キャンパス3号館、校友会館、附属農場本館の耐震工事を実施し、平成23年3月に完了。
- 天白キャンパス新体育館のバリアフリー化工事を実施し、平成23年3月に竣工。
- 研究実験棟Ⅱ(仮称)の実施設設計図を作成し、建設予定地の建物等の解体工事に着手。
- 八事新2号館(西)(仮称)の実施設設計図を作成。
- 日進総合グラウンドの多目的グラウンドの改修工事に着手。
- 鷹来キャンパスの用途地域変更について、春日井市との協議を行い、愛知県の都市計画審議会において、用途地域変更案が承認。
- 平成22年9月に附属高等学校の第一体育館が竣工。
- 天白キャンパス正門西側の土地を購入。

収支構造改善を目指した取組を推進する。

- 「名城大学教育振興資金」として155件、約42,689千円の寄附を受納。
- 特別補助金として、819百万円を獲得。

**組織マネジメントの観点から、担当理事制及び
事務組織の改革整備に取り組む。**

- 学務センターと学部事務室の強化に向けた事務組織改編を実施。
- 各部署での業務改善を目的として、事務職員の管理職者が作成した業務改善計画書及び報告書に基づき、理事長との面談を実施し、業務の改善に努めた。

**附属高等学校における目標共有を中心とした
マネジメント体制を整備する。**

- 運営委員会の在り方を確認し、各部署からの報告体制を強化した。
- 「附属高等学校活性化方策検討会」の見直しをするとともに、新たな附属高等学校の将来像の共有化を図った。

**社会的責任を意識した
危機管理体制の構築に取り組む。**

- 公益通報者保護法に基づき、本法人のコンプライアンス経営を強化するため、公益通報制度を導入。
- 教職員の安全と健康を確保し、快適な職場環境の形成の促進のため、労働安全衛生法に基づき、安全衛生委員会を設置。

- 地区別在学生交流会が開催され、学長、学務センター長等が出席。

6 「産学官連携の推進」分野

産学官連携部門の整備充実を支援する。

- 科学技術交流財団ふるさと雇用再生特別基金事業として、科学技術コーディネーター実務研修員1名を受け入れ。

特許を始めとする知的財産創出を支援する。

- 特許出願は、国内出願34件、国外出願7件。

**教員の研究シーズを発掘し、シーズを生かして
新しい製品やサービス、事業を生み出すため、
企業及び各省庁等との連携を支援する。**

- 産学連携の共同研究等を推進すること等を目的として、愛知銀行と産学連携に係る包括協定を締結。
- イノベーションジャパン、A-NEXT次世代自動車産業展、nano tech 2011、シーテックJAPANなどの展示会に出展。
- 東海商工会議所、大府商工会議所、岡崎商工会議所と連携し、交流会等に参画。



7 「地域貢献」分野

**大学づくりと街づくりの一体化を図り、
地域に密着した大学を目指す取組を支援する。**

- 名駅サテライト(MSAT)において、年間22コマの公開講座を開講。
- 名駅サテライト(MSAT)を卒業生及び本学関係者を中心に、26,112名が利用。
- 愛知県警本部、他大学と連携した自主防犯活動団体であるヤングボランティア「APP」を結成し、26回の行事に延べ234名が参加。
- 天白区役所などと連携し、年末警戒パトロール、清掃活動等の各種行事に参加。
- 「ボランティア協議会」の活動(クリーンアップ大作戦、学内環境パトロール、地域安全パトロール、名古屋女子大学・東海学園大学と連携した3大学合同パトロール、大坪小学校でのふれあいあいさつ運動、災害ボランティア、社会福祉施設あしたの丘訪問ボランティア)に積極的に支援。
- 「名城大学Day」(平成22年9月18日)を開催し、4,800名が参加。
- 刈谷市教育委員会との連携により、大学連携講座を前期3講座、後期3講座を開講。
- 理工学部市民開放講座を始めとする各種公開講座を実施。
- 農学部において、春日井市との連携による「アーバンフィールドサイエンス事業」を推進し、第2期生として、19名を認定。

**附属高等学校の地域社会との
交流促進を支援する。**

- 附属高等学校の生徒が学校周辺及び庄内川河川敷清掃を実施。
- 総合学科において、地域の会社と連携し、商品企画から開発、販売までを実施。

- ハンドボール部が第49回西日本学生ハンドボール選手権大会において第3位。
- 柔道部が東海学生柔道夏季優勝大会において、男子・女子ともに優勝。
- エコノパーククラブが本田宗一郎杯Hondaエコマイレージチャレンジ2010 第30回全国大会において優勝。
- 準硬式野球部が清瀬杯第42回全日本大学選抜準硬式野球大会においてベスト4。
- 都市情報学部軟式野球部が第31回東日本学生軟式野球選抜大会において準優勝。
- バーベルトレーニング部の甲賀涼選手が第28回世界ジュニアパワーリフティング選手権大会男子52Kgにおいて第5位。武藤佳子選手が女子52kgにおいて第5位。
- 附属高等学校において、地区大会以上の出場部活動は、13部となり、その内、全国大会出場部活動は10部となった。
- 附属高等学校のウエイトリフティング部の生徒が全国総体、国体で入賞。

**国際交流活動の活性化に向け
学内外への情報発信を支援する。**

- 海外協定校として、新たに2大学及び1機関と締結。(海外協定校数:52大学及び3機関)

**留学生に対する各種支援の充実と
在学生の海外研修制度を支援する。**

- 可児キャンパスの留学生対象の「セブンスヘブンかに」の契約満了に伴い、新たに住宅支援制度を構築。
- 交流モデル校として、「北京第二外国語学院(中国)」、「クィーンズランド工科大学(オーストラリア)」、「南カリフォルニア大学(アメリカ)」の3大学を選定。
- 平成22年度中に学生を国外に、381名派遣。

附属高等学校のチームカウンセリングの充実策を講ずる。

- スクールカウンセラーを含むチームカウンセリングを実践。
- 多様な問題を抱えた生徒に対して、保健室だけでなく、担任等と情報共有、あるいは情報交換し、協力しながら生徒支援を実施。

5 「卒業生及び父母(保護者)との連携強化」分野

卒業生及び父母(保護者)との交流の促進を支援する。

- 平成22年10月23日に、福井市において、第1回オール名城父母懇談会を開催し、父母、校友会、大学関係者総勢116名が参加。
- 卒業30周年事業ホームカミングデイ(平成22年11月27日)を開催し、167名の卒業生が参加。
- 卒業生中学校・高校教員との交流会(平成22年12月4日)を開催し、65名の卒業生が参加。
- 各学部において、地区懇談会を64会場で実施。
- 法学部創立60周年記念式典等(平成22年11月28日)及び農学部創立60周年記念式典等(平成22年9月19日)の実施。
- 附属高校において、同窓会執行部会、PTA常任委員会等を実施。

**校友会等の団体との連携を推進し、
ブランド力向上に向けた取組を支援する。**

- 全国34支部及び台湾支部において校友会支部総会、並びに愛知県内卒業生の会(5回)が開催され、理事長、学長、学部長等が出席。

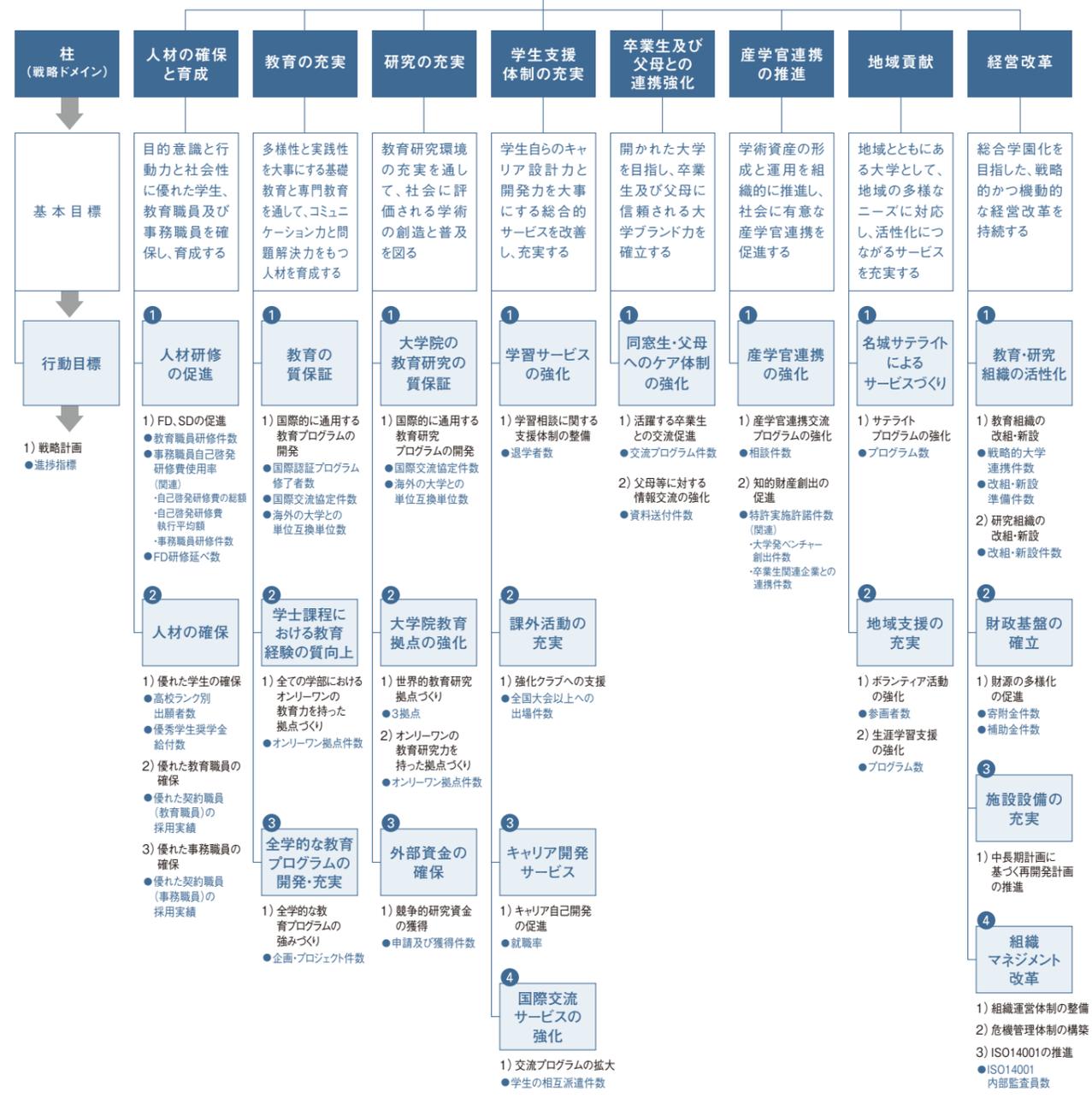
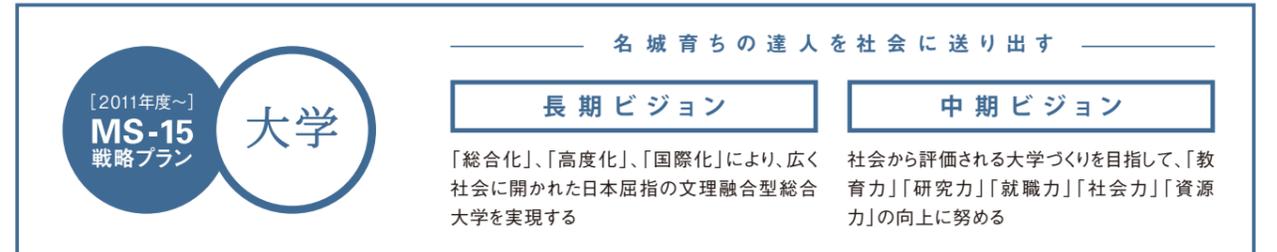
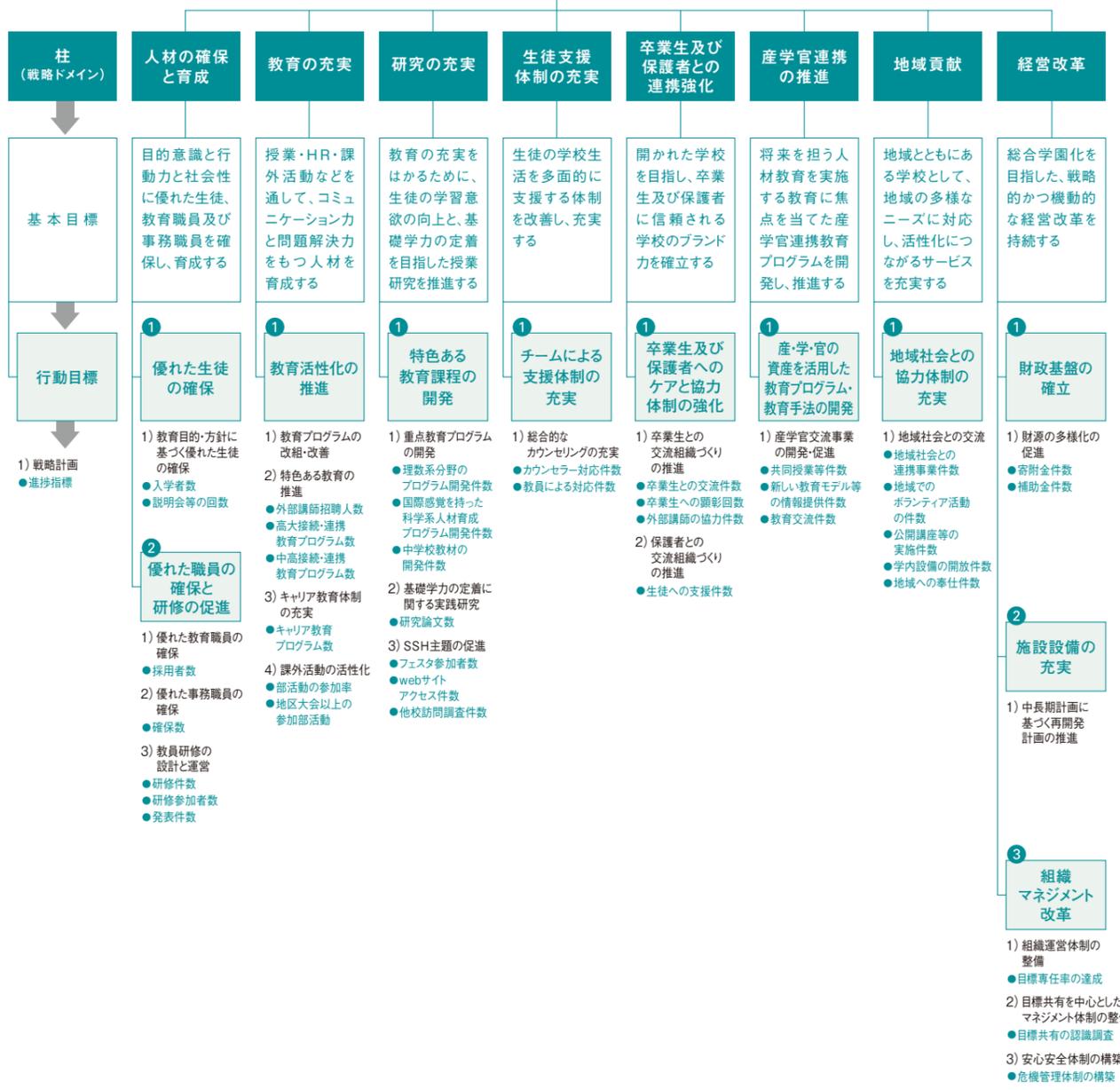
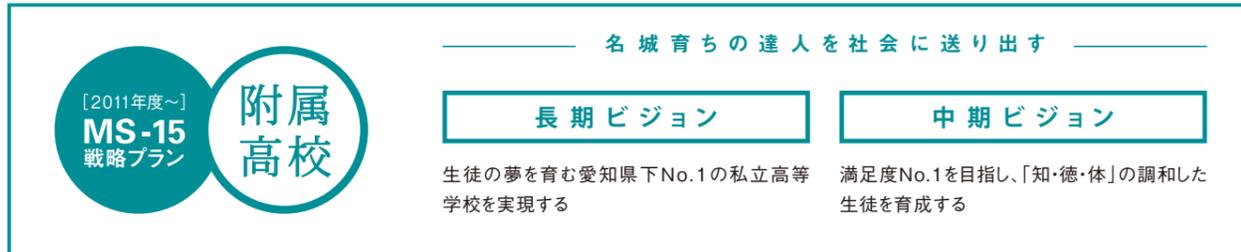


学校法人名城大学の基本戦略について

2005年度から、「学校法人名城大学における基本戦略について(以下MS-15と称する)」を策定し、2015年までの戦略構想を発信しています。
2011年度も、引き続き、ビジョンである「広く社会に開かれた日本屈指の文理融合型総合大学」、「生徒の夢を育む愛知県下ナンバー1の私立高等学校」を目指して取り組み、ミッションステートメントである「名城育ちの達人を社会に送り出す」を果たしていきたいと考えています。

Meijo Strategy-2015

学校法人名城大学の基本戦略について



平成23年度

事業計画

本法人のミッション・ステートメント『名城大学の達人を社会に送り出す』を果たすべく、平成23年度は、平成22年度の取り組みを踏まえ、①学を促す教職協働のPDCAの構築、②新学部・研究科の設置、③開学100年を目標とした周年事業プロジェクトの推進、を事業の柱として推進します。

I 事業方針

- 1 教育と学びの特色づくりを奨励し支援する。
- 2 戦略的連携を活用して地域及び世界レベルの研究拠点の環境基盤づくりを促進し支援する。
- 3 教育研究の向上につながる人材育成と業務効率化を促進し支援する。
- 4 在学生と卒業生の母校満足度を改善する教育研究環境をつくり出す。
- 5 寄附金財源の比率を上げる財務多様化戦略を推進する。

II 戦略プランに基づく事業計画の重点施策

平成23年度の事業計画の重点施策を次のとおり掲げます。

- 1 「人材の確保と育成」分野
 - 大学院教育を含むFD (Faculty Development) 活動を支援する。
 - 教職協働に基づく事務職員の人材高度化をめざすSD (Staff Development) を支援する。
 - 優れた学生・生徒及び教職員の確保に向けた支援策を講ずる。
 - 附属高等学校の活性化につながる教員専任率向上に取り組む。
 - 附属高等学校における教員研修の充実を支援する。
- 2 「教育の充実」分野
 - 学士課程教育の質向上に向けて、特色ある教育拠点づくりを支援する。
 - JABEEを始めとする国際的に通用する教育プログラムを支援する。
 - 初年次教育を含む全学共通教育の充実を支援する。
 - 実践的英語力の底上げと卓越性への取組を支援する。
- 3 「研究の充実」分野
 - 世界水準の研究発信に向けて、特色ある研究拠点づくりを支援する。
 - 総合研究所における研究センターの充実を支援する。
 - ナノテクノロジー、LEDを始めとする世界先端研究拠点を支援する。
 - 大学院における国際的通用性の高い教育研究プログラムを支援する。
 - 外国を含めた他大学院、研究所等との連携研究を支援する。
 - 外部研究資金の獲得を奨励し、必要な支援策を講ずる。
 - SSH、高大一貫教育を始めとする附属高等学校の特色ある教育プログラムの開発・研究を支援する。

4 「学生・生徒支援体制の充実」分野

- キャリア自己開発の観点から、進路・就職力の向上策を支援する。
 - 情報共有等を目的とした企業との連携強化策を支援する。
 - 就学意欲の向上等を目的とするインターンシップの充実策を支援する。
 - 公務員・各種資格取得を支援する。
- 経済不況に対応した奨学金制度の整備充実を支援する。
- 学生・生徒の実態に基づき、満足度の向上を目指した取組を支援する。
- 課外活動への支援を強化し、育成環境の充実策を講ずる。
- 国際交流活動の活性化に向け、交流プログラムの拡大を支援する。
- 留学生に対する各種支援の充実と在学生の海外研修制度を支援する。
- 附属高等学校のチームカウンセリングの充実策を講ずる。

5 「卒業生及び父母(保護者)との連携強化」分野

- 卒業生及び父母(保護者)との総合的な交流の促進を支援する。
- 校友会等の団体との連携を推進し、ブランド力向上に向けた取組を支援する。

6 「産学官連携の推進」分野

- 産学官連携部門の整備充実を支援する。
 - LED共同研究センターを活用した取組を支援する。
 - 大学発ベンチャーに対する各省庁等との連携を支援する。
- 特許を始めとする知的財産創出を支援する。
- 教員の研究シーズを発掘し、シーズを生かして新しい製品やサービス、事業を生み出すため、企業及び各省庁等との連携を支援する。

7 「地域貢献」分野

- 大学づくりと街づくりの一体化を図り、地域に密着した大学を目指す取組を支援する。
 - 安心安全の地域づくりに向けたボランティア活動を支援する。
 - 名城サテライトにおけるプログラム強化を支援する。
 - 地域生涯学習プログラムに対する拠点づくりの支援策を講ずる。
- 附属高等学校の地域社会との交流促進を支援する。

8 「経営改革」分野

- 総合学園化構想を踏まえた取組を推進する。
 - 新たな学部、大学院研究科の設置に向けて取り組む。
 - 開学100年を目指した周年事業プロジェクトの推進に取り組む。

- 施設設備の充実に向けて、再開発計画の実行と評価に取り組む。
 - 研究実験棟Ⅱ(仮称)の建設に着手
 - 八事新2号館(西)(仮称)の建設工事の推進
 - 日進グラウンド内、多目的グラウンド改修工事の竣工
- 収支構造改善を目指した取組を推進する。
 - 補助金及び外部資金等の確保に向けて組織的に取り組む。
 - 年度目標額の設定と達成に向けた募金事業に取り組む。
 - 支出削減運動に取り組む。
- 組織マネジメントの観点から、担当理事制及び事務組織の改革整備に取り組む。
- 附属高等学校における目標共有を中心としたマネジメント体制を整備する。
- 社会的責任を意識した危機管理体制の構築に取り組む。
- 人材のプロフェッショナル化を促す人事考課制度の導入、給与体系の見直しに取り組む。
- ISO14001の推進を継続して取り組む。

2. 貸借対照表

高水準の帰属収支を反映して、自己資金が35億円増加しました。
その多くは金融資産に蓄積されました。なお、デリバティブ関連の損失(含み損)はありません。

資産の部 (単位:百万円)

科目	H22年度	H21年度	増減
固定資産	71,659	71,995	△ 336
有形固定資産	52,767	52,868	△ 101
その他の固定資産	18,892	19,127	△ 235
流動資産	23,179	20,118	3,061
合計	94,838	92,113	2,725

金融資産(現預金)の増加。

負債の部・基本金の部・消費収支差額の部

科目	H22年度	H21年度	増減
負債の部合計	8,483	9,305	△ 822
固定負債	3,525	4,255	△ 730
流動負債	4,958	5,050	△ 92
自己資金	86,355	82,808	3,547
基本金の部合計	90,051	88,215	1,836
消費収支差額の部合計	△ 3,696	△ 5,407	1,711
合計	94,838	92,113	2,725

負債は着実に減少。

3. 基礎数値

学生数推移



志願者数推移



専任教員数



1. 消費収支計算書

平成18年度から薬学部が6年制になり、平成22年度に1学年増え、5年生になったことによる効果が大きく寄与し、収入は254億円と4億円の増加となりました。支出も教職員の増加等により4億円増加しましたが、収支差額は35億円を確保し、前年と同様、高い水準となりました。

消費収入の部 (単位:百万円)

科目	H22年度	H21年度	増減
学生生徒等納付金	19,672	19,382	290
手数料	1,050	1,057	△ 7
寄附金	301	271	30
補助金	3,075	2,682	393
資産運用収入	394	417	△ 23
事業収入	356	454	△ 98
雑収入	574	736	△ 162
帰属収入合計	25,422	24,999	423
基本金組入額合計	△ 1,835	△ 1,492	△ 343
消費収入合計	23,587	23,507	80

学生数は減少しているが、薬学部6年制効果により増加。

科学技術創生館設置に係る補助金が増加。

大型受託研究終了に伴う減少。

退職金減に伴い、退職金財団交付金も減少。

消費支出の部

科目	H22年度	H21年度	増減
人件費	12,170	12,129	41
教育研究経費 (内減価償却額)	8,158 (2,163)	7,838 (2,274)	320 (△ 111)
管理経費 (内減価償却額)	1,225 (157)	1,260 (161)	△ 35 (△ 4)
借入金等利息	9	14	△ 5
資産処分差額	313	186	127
消費支出合計	21,875	21,427	448
帰属収支差額	3,547	3,572	25

教職員の増加に伴い、全体で増加。

薬学部5年生の実務実習費及び、図書棚卸実施に伴う費用の発生。

可児キャンパス設備償却終了に伴う減少

図書棚卸に伴う除去処理

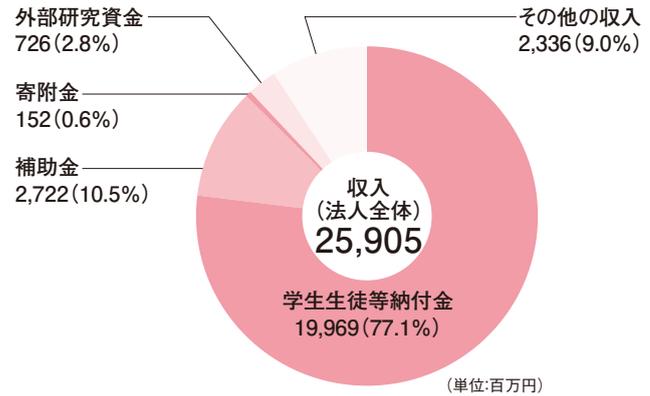
なお、決算書の数値は、高校を含めた法人全体の数値となっております。
詳細の財務報告については、ホームページをご参照ください。

学校法人名城大学全体の予算のうち、主に大学部門にかかわる項目について、ご説明いたします。

収入

今年度については、学部・大学院を合わせて3,853人の新入学生を迎えることができました。収入は、皆様からの納付金を中心に、250億円を超える高い水準で、安定的に確保できる見込みです。

一方、外部研究資金等の獲得推進により、収入の多様化をはかってまいります。

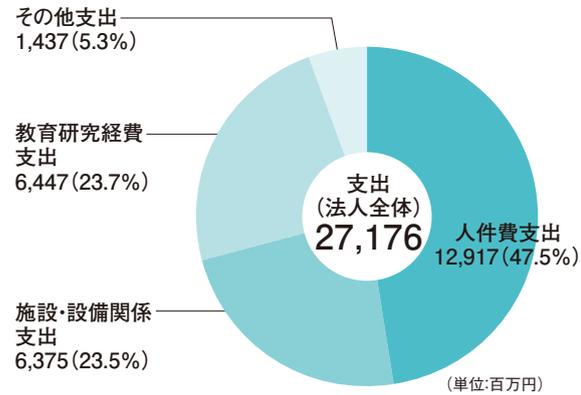


支出

本学の支出では、教育研究活動に関する予算が全体の約90%を占めており、ハード・ソフトの両面から教育・研究活動の充実をはかっています。

今年度は、校舎2棟の建設に本格的に着手することから設備投資が昨年と比べ大幅な増額となっています。

主な支出項目は以下のとおりです。



(1) 人件費支出

平成23年度については、教員476人体制、事務職員等273人体制を構築し、教育力・研究力の強化に努めてまいります。

(2) 施設・設備関係支出

支出予算の約25%に当たる約64億円をかけ、キャンパス再開発計画を中心に、教育研究環境の整備を行い、魅力あるキャンパスづくりを進めます。

- ①天白キャンパスでは、「タワー75」「共通講義棟」「共通講義棟北」「研究実験棟I」に続き、最新の実験室、研究室等を備えた「研究実験棟II」を建設します。
- ②薬学部6年制課程への対応として、八事キャンパスでは「八事新1号館」に続いて「八事新2号館」を建設し、多様な薬学教育を実現する実験実習施設の充実をはかります。

(3) 教育研究経費支出

支出予算の約25%に当たる約65億円を、「教育研究関係経費」や「学生支援」に充て、学生支援体制の充実に努めてまいります。

- ①経済不況への対応も含め、奨学金制度に約4億円の予算を充当し、制度の充実をはかります。
- ②就職支援については、今年度もセミナー等様々な就職支援行事を用意しています。また、経済不況下における就職活動への支援として、遠方にて就職活動を行う学生に対して旅費の補助を行います。

申込不要・受講無料
(名駅サテライトシリーズを除く)

平成23年度 後期公開講座

起業講座シリーズ(全12回)

経済・経営学部

定員:500名

9/28(水)~1/11(水) 毎週水曜日 18:10~19:40 太白キャンパス 共通講義棟北名城ホール 起業講座「新時代を拓く日本の新しいものづくり」 一 大 高

●お問い合わせ/経済学部事務局 TEL:052-838-2052

名城カレッジシリーズ

太白キャンパス

10/29(土) 14:00~16:00	共通講義棟(南) 202講義室	法学部	「裁判員法」施行2年半の動向と展望 ●お問い合わせ/法学部事務局 TEL:052-838-2050	榎本 雅記 名城大学法学部准教授	定員:150名 一 大 高 中
11/12(土) 14:00~16:00	共通講義棟(南) 101講義室	人間学部	1部/「宇宙ヨットで挑む宇宙探査」 2部/トークセッション(水尾 衣里 人間学部教授×森 治 氏) ●お問い合わせ/人間学部事務局 TEL:052-838-2055	森 治 宇宙航空研究開発機構(JAXA)助教、 「イカロス」プロジェクトリーダー	定員:500名 一 大 高 中 小
11/17(木) 13:00~14:30	共通講義棟北 N102講義室	附属 図書館	書字文化「電子書籍の現在と未来」 ●お問い合わせ/附属図書館 TEL:052-838-2085	新田 英直 紀伊國屋書店eコマース事業本部 電子書籍事業部長	定員:150名 一 大
12/10(土) 13:00~16:00	共通講義棟北 N324講義室	農学部	身近なバイオサイエンス ~身近に潜む化学物質汚染~ 講演1/地球上における有害化学物質の循環と汚染 —重金属と放射能を中心として— 講演2/大気汚染は改善したのか? —大気汚染物質と暴露リスク— ●お問い合わせ/農学部事務局 TEL:052-838-2054	講演1 坂田 昌弘 静岡県立大学環境科学研究所長・教授 講演2 大浦 健 名城大学農学部准教授	定員:150名 一 大 高

八事キャンパス

10/22(土) 13:30~14:45	6号館4階 情報メディア教室	薬学部	くすりと健康 「日本は医療にどれだけお金を使っているのだろうか」 ~医療費はへらさなくてはいけないの?~	坂巻 弘之 名城大学薬学部教授	定員:150名 一 大 高 専
10/22(土) 15:00~16:15	7号館3階 生物系共同実習室	薬学部	くすりと健康「薬用植物・生薬を知ろう」 ~病は気から、気には薬、気になる薬?~	川村 智子 名城大学薬学部准教授	定員:150名 一 大 高 専

●お問い合わせ/薬学部事務局 TEL:052-839-2607

農学部附属農場(春日井)

11/26(土) 13:00~15:00	附属農場 本館2階 第3教室	農学部	野菜のサイエンス 講演1/体にやさしい野菜をつくる 講演2/光合成のはなし	講演1 村上 賢治 岡山大学大学院 自然科学研究科准教授 講演2 鈴木 茂敏 名城大学農学部教授	定員:80名 一 大
-------------------------	----------------------	-----	---	--	---------------

●お問い合わせ/農学部事務局 TEL:052-838-2054

※聴講対象者のマーク 一 一般市民・卒業生・在学生保護者 大 大学生・大学院生 高 高校生 中 中学生 小 小学生 専 当該専門家

名駅サテライト(MSAT)シリーズ

会場:名城大学名駅サテライト(MSAT)

法科大学院公開講座 専門家対象 申込必要 有料 定員:各25名

11/9(水)~2/22(水) 原則第2,4水曜日	15:00~17:00	法科大学院 (法務研究科)	今日から役立つ契約実務 国内外の契約書作成・チェックに必要な基礎知識(国際英文契約)	宮島 元子 名城大学法務研究科教授
11/1(火)~2/7(火) 原則第1,3火曜日	15:00~17:00	法科大学院 (法務研究科)	企業経営と実践的知的財産 紛争、訴訟を含めた実践的知的財産マネジメントと実務対応	青山 高美 名城大学法務研究科教授

●お問い合わせ/法務研究科事務局 TEL:052-838-2022 FAX:052-833-5240 Eメールアドレス:ogakumdg@ccmails.meijo-u.ac.jp

企業コンプライアンス・セミナー 企業関係者・本学大学院生対象 申込必要 無料 定員:各90名

10/5(水) 15:00~17:30	総合研究所 コンプライアンス 研究センター	「最新のコンプライアンス問題について」 「最近の独占禁止法実務の動向(震災対応を含む)」	郷原 信郎 名城大学総合研究所教授、コンプライアンス研究センター長、弁護士 多田 敏明 弁護士
11/2(水) 15:00~17:30		「最新のコンプライアンス問題について」 「組織不祥事の失敗学 第3部 風通しの良い組織を創る」	郷原 信郎 名城大学総合研究所教授、コンプライアンス研究センター長、弁護士 樋口 晴彦 警察大学校教授
12/7(水) 15:00~17:30		「最新のコンプライアンス問題について」 「最新の情報セキュリティ、BCP、コンプライアンス」	郷原 信郎 名城大学総合研究所教授、コンプライアンス研究センター長、弁護士 藤井 裕之 総務省参与、㈱CTアセスメント代表取締役、㈱コンプライアンス・コミュニケーションズ代表取締役
1/25(水) 15:00~17:30		「最新のコンプライアンス問題について」 「官民協働(PPP)と企業経営~CSRの最新動向~」	郷原 信郎 名城大学総合研究所教授、コンプライアンス研究センター長、弁護士 楠 茂樹 上智大学法学部准教授
2/17(金) 15:00~17:30		「最新のコンプライアンス問題について」 「企業コンプライアンスの軌跡」	郷原 信郎 名城大学総合研究所教授、コンプライアンス研究センター長、弁護士 大村 多聞 帝京大学法学部教授、ケネディクス株監査役、元三菱商事(株)法務部長・理事

●お問い合わせ/コンプライアンス研究センター 楠助教 kmisako@meijo-u.ac.jp

※対象のうち、「一般市民」には卒業生、学費負担者を含みます。学生は特に断りのない限り、大学生及び大学院生を意味します。※講演者または講演者の職名は断りなく変更になる場合があります。

名城大学 スポーツ・文化後援会 からのお知らせ



かんばやしあきら
会長 上林 晃

基本方針

- 全国で戦えるスポーツ系クラブに特化して支援する。
名城大学の特別強化クラブ、強化クラブを中心に支援します。
- 活躍する文化系クラブへ支援する。
スポーツ系クラブのみならず、活躍している文化系クラブへ支援します。
- 就職活動を側面から支援する。
名城大学キャリアセンターを通じて、在学生、卒業生の就職活動を支援します。

クラブ活動の支援

全国大会で戦うスポーツ系クラブ

- ・女子駅伝部 全日本大学女子駅伝対校選手権大会 4年連続堂々の3位
- ・柔道部 全日本学生柔道優勝大会 ベスト8(女子3人制)
- ・ハンドボール部 全日本学生ハンドボール選手権大会 出場
- ・バレーボール部 全日本バレーボール大学男子選手権大会 出場



女子駅伝部

活躍する文化系クラブ

- ・エコノパワークラブ 本田宗一郎杯Hondaエコマイレージチャレンジ2010 第30回全国大会 優勝(グループⅢ)
WEMC in NATS 2010 優勝(大学の部)
- ・将棋部 秋季中部学生将棋団体戦 優勝

ボランティア活動の支援

- ・クリーンアップ大作戦
- ・「あしたの丘」福祉ボランティア
- ・地域安全パトロール
- ・盲導犬ボランティア
- ・エコキャップ回収大作戦
- ・義援金の募集
- ・支援物資の募集

東日本大震災復興支援

- ・仙台市立病院への支援物資の寄贈



仙台市立病院での荷下ろしの様子

※クラブ等の活動は平成22年度の実績です

企業の方へ賛助のお願い

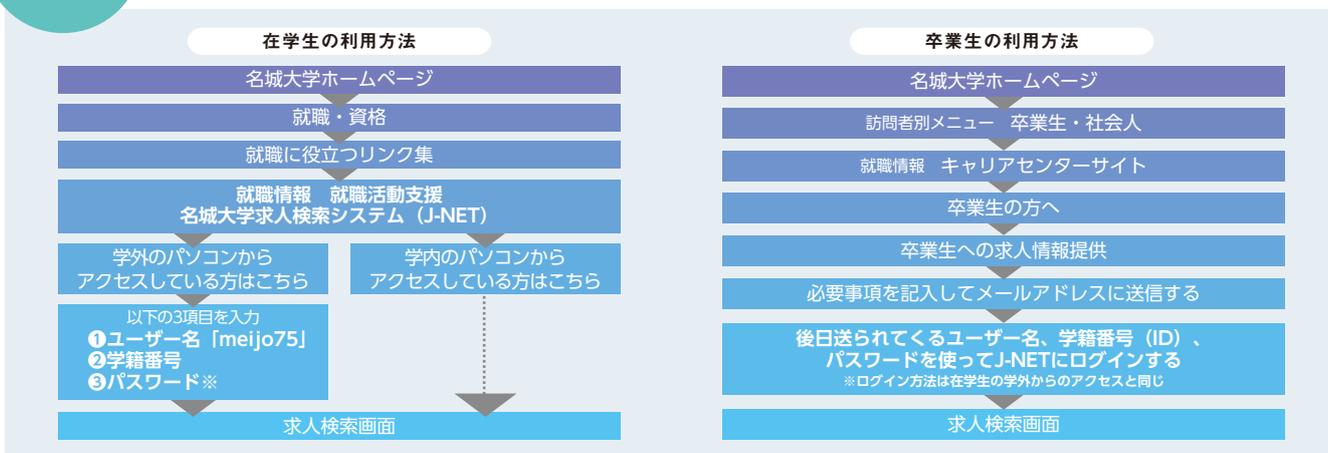
本後援会は名城育ちの達人を社会に送り出すべく、名城大学学生のスポーツ・文化クラブの支援とともに在学生、卒業生に対する就職活動を支援する目的で活動しております。その活動のひとつとして、趣旨にご賛同いただいた企業様に名城大学キャリアセンター主催の学内企業研究セミナー、賛助企業ナビをご紹介します。

◎学内企業研究セミナー参加概要

- ・セミナーは、名城大学キャリアセンターが主催いたします。
- ・セミナーの開催月は、2月の予定です。
- ・セミナーへのご参加をご希望される場合は、キャリアセンターへ推薦いたします。
- ・セミナーへのご参加は賛助企業紹介誌への広告掲載が必要です。
- ・開催日によっては、参加学生が少ない場合がございますことをご了承ください。

賛助企業 ナビ

名城大学スポーツ・文化後援会は、名城大学の在学生、卒業生の皆さんの就職を支援いたします。



※生年月日を8桁の数字に直したもの(例:19880501)

お問い合わせ

名城大学スポーツ・文化後援会事務局 〒468-8502 名古屋市天白区塩釜口1-501 名城大学学務センター内
TEL: (052) 838-2098 (ダイヤルイン) FAX: (052) 833-5240
E-MAIL: spobun@ccmails.meijo-u.ac.jp

「卒業30周年 ホームカミングデイ」のご案内

本学では、平成20年度から「卒業30周年ホームカミングデイ」を実施しております。

人生の中でも大きな節目である卒業後30年目の皆様に大学にお集まりいただき、「懐かしい友との出会い、新しい友との出会い」を通じて母校を振り返る機会としていただきたく実施しているものです。

学生時代を謳歌した同窓が一堂に会し、「新たな再会」を通して強固なネットワークを構築する場となり、さらには名城大学の今日までの発展と開学100周年に向けた今後の展望を感じていただければ幸いに存じます。

今年度は**昭和56年度(昭和57年3月卒業・修了)卒業生の皆さんが対象です**。追って詳細なご案内をお送りいたしますが、是非ともお知り合いの同窓生をお誘い合わせの上、一人でも多くの方にお越しいただきますことを、心より願っております。



開催日時 2011年11月26日(土) 12:00~18:00

場所 天白キャンパス共通講義棟北
「名城ホール」「名城食堂」

事業 懐かしの学食体験、キャンパス見学会、
ウエルカムコンサート(予定)、お楽しみ抽選会、
懇親交流会

お問い合わせ先 大学・附属高等学校振興推進準備室
052-838-2066 (ダイヤルイン)

名城大学管弦楽団 第27回定期演奏会

PROGRAM

ブラームス交響曲第3番へ長調 作品90
ヴォーン・ウィリアムズ チューバ協奏曲／エロール「ザンパ」序曲
指揮 吉田 年一



開催日時 2011年9月19日(月・祝) 開場/17:45 開演/18:30

場所 愛知県芸術劇場コンサートホール

料金 全席自由500円

※チケット取扱
市内有名楽器店、愛知県芸術文化センター内プレイガイド

お問い合わせ先 名城大学管弦楽団 広報 須田・080-6924-8527
<http://meijo-orch.s7.xrea.com/>

名城大学応援団吹奏楽部 創立40周年記念 第36回定期演奏会

PROGRAM

第一部『クラシックステージ』
第二部『40周年記念ステージ』
第三部 八木澤 教司／吹奏楽のための詩曲「はてしなき大空への讃歌」など
客演指揮 亀山 吉彦



開催日時 2011年11月26日(土)
開場/17:00 開演/17:30

場所 ウィルあいち(愛知県女性総合センター)

料金 無料(チケットがなくても入場可能です)

お問い合わせ先 milestone@mb.ccnw.ne.jp

名城大学入学センターからのお知らせ

秋のオープンキャンパス開催

高校生の皆さん、友人やご家族とお越しください!

■10月22日(土) 10:00~15:00

○可児キャンパス(都市情報学部)

全国各地で「進学相談会」に参加しています。

詳しくは大学HPで。



平成24年度 推薦入学出願開始 迫る!

平成24年度 名城大学公募制推薦入学試験のご案内

◆公募制推薦入試(どなたでも応募できます。ただし薬学部は出願条件があります)

募集学部	出願期間	試験日	試験地
全学部	10月24日(月)~11月4日(金)	11月20日(日)	天白・八事・可児

◆専門高校等特別入試(商業科、総合学科等で商業、情報処理、国際関係科目を履修した人が対象。経営学部、経済学部は出願条件があります)

募集学部	出願期間	試験日	試験地
経営学部 経済学部 都市情報学部	10月24日(月)~11月4日(金)	11月20日(日)	天白・可児

◆指定校推薦入試については、各高校の担任または進路指導の先生にお問い合わせください。◆その他の試験方式を含め詳細については、名城大学HP、入学ガイド等をご覧ください。

◎高校生・保護者対象の大学見学会も随時受け付けています。

お問い合わせ先 入学センター 052-838-2018(直)

(有)名城大学サービスからのお知らせ

“義援金付き”名城大学オリジナルグッズのご紹介

(有)名城大学サービスでは、現在、東日本大震災への被災者支援として、義援金付き名城大学オリジナルグッズの販売を行っております。対象商品の価格の10%を義援金として、名城大学ボランティア協会を通じて寄付させていただきます。是非、この機会に皆さまの温かいご支援を宜しくお願い申し上げます。

(有)名城大学サービス
代表取締役 鈴木 昭二



長野・木曾平沢で「名城大学オリジナルグッズ」として製造された漆塗りの格調高い商品です。是非、卒業・就職・結婚・家族の誕生会などの記念品としてご利用いただければ幸いです。

※商品は「黒漆塗り金箔飾り」で、名城大学ロゴは裏面に入っております。

フォトスタンド 5,000円(税込)

今年の夏は省エネで、クールビズを実施している事業所が多いかと思いますが、是非、秋冬に向けて「名城大学オリジナルネクタイ」をつけて好感度アップはいかがでしょう。

ネクタイ(カラー:ブルー/エンジ シルク100%)
3,600円(税込)



ご購入のお問い合わせ、お申し込みは…

(有)名城大学サービス 052-837-1511(直) または m.u.s@meijo-mus.co.jp

奇術部



奇術部は八事キャンパスの学生会館城ホールを拠点に活動する薬学部学生会所属のクラブです。「非常にアットホームなクラブで、先輩後輩を感じさせないほどとても仲が良い」と話す部長の後藤紗彩さん(薬学部3年)は、薬学部6年生も含めた40人以上の部員をまとめます。

大学祭、学外イベントや福祉施設、子供会が主な活動の場です。大学祭は1年生全員と上級生の一部がマジックを披露する一大イ

イベントです。また福祉施設や子供会では、子供たちを相手に短い時間で面白さが伝わるなどの点に心掛けながら、マジックだけに留まらない交流を行っています。

さらに、昨年から名古屋市の学生団体が企画運営するイベントにも参加。名古屋まつりやランの館(名古屋市中区)などでもマジックやジャグリングを披露しました。

部員の近藤千貴さん(経済学部2年)は、「マジックの醍醐味は驚きとともにお客様に喜んでい

ただけること。歓声があがったり、『もう一度やって』と言われたりするとすごくうれしい」と話しました。

部員たちは鏡の前で練習を行い、お互いにマジックを見せ合い、アドバイスをしながら、日々テクニックを磨いています。お客様の喜ぶ顔、驚く顔を見ることが、彼らにとって何よりのエネルギーです。



— 名城大学Day中止のお知らせ —

名城大学Day

平成15年度から7回にわたり行われてきました名城大学Dayは、今年度は東日本大震災の甚大な被害状況に配慮して開催を見送らせていただくことになりました。楽しみにされていた皆さまには大変申し訳ございません。ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。



表紙の写真

名城大学ボランティア協議会の学生が、「3万枚の奇跡～被災地に届け私たちの思い～」でタオル提供を呼びかけました。集められたタオルは、東日本大震災の被災地で清掃活動などに役立てられます。ボランティア協議会はクリーンアップ

大作戦をはじめとする普段の活動も行いながら、「3万枚の奇跡」運動の他、義援金募金活動、被災地での復興活動※を行うなど、献身的かつ積極的に活動を行っています。

※被災地での復興活動はボランティア協議会に所属していない学生も参加しています。